



むくどり通信

2025. November

11

No. 290

特集 堺第7-3区の野鳥
— 過去・現在・未来 —

日本野鳥の会大阪支部



堺第 7-3 区は、およそ 50 年前から 30 年にわたり産業廃棄物処理のために広大な海域が埋め立てられてできた場所です。その広さは約 280ha に及びます。堺第 7-3 区は、埋め立ての進行の過程で、さまざまな環境が形成され、環境に応じた多くの野鳥が生息してきました。2006 年には大阪府内で初めてのチュウヒ（環境省：絶滅危惧ⅠB 類）の繁殖が確認されるなど、湿地や草地環境を好む野鳥にとって重要な生息場所として機能してきました。

現在、一次処分地は「みなと堺グリーンひろば」として開放されていて、二次処分地については立入制限区域となっています。二次処分地では約 20 年前（2004 年）から「共生の森」として市民参加の森づくりが行われてきました。又、2011 年には共生の森に隣接してメガソーラー事業が稼働するなど、大きな環境の変化がありました。2024 年には共生の森工エリア（湿地や草地を含む約 100ha）が「自然共生サイト」に指定され、今後、当地が生物多様性保全の拠点として機能していくことが期待されます。

特集では、これまでの当地の自然の変遷や野鳥の生息状況の変化などに触れ、当地を再び水鳥などの一大渡来地とするため、未来にどのような環境を残すのか、今後こういった取り組みが求められるのかなどを考えたいと思います。



CONTENTS

2025.11 No.290

カモ類の群れる Z 池にハヤブサが飛来
背景のビルは大阪府咲洲庁舎 2022 年 10 月

- 2 特集 堺第7-3区の野鳥 過去・現在・未来
- 3 堺第7-3区で見られる野鳥
- 4 堺第7-3区の環境の推移と野鳥生息状況の変化
- 5 堺第7-3区の野鳥 過去から現在
- 6 堺第7-3区でのネイチャーポジティブの実現を
- 7 共生の森の未来 / 堺市野鳥観察小屋を初来訪
- 8 大阪湾岸ネイチャーポジティブ国際シンポジウム報告
- 9 身近な鳥から鳥類学 第79回 カワウが繁殖をはじめの季節
- 10 カラス、語る 新米バーダーの非日常 第1回
- 11 かもめコーヒー・今日のお客さま 第20回
- 12 小山慎司の日本列島鳥見旅 第29回（番外編）
- 14 探鳥会報告
- 17 研究ダイアリー
- 18 鳥信 オオヨシゴイ、ワライカモメ、夢洲の野鳥他
- 22 幹事会報告 / 納涼野鳥まつり報告/リーダーズフォーラム報告
- 23 次号予告 / 編集後記
- 24 ガンカモ調査員大募集 カモ類識別講座の案内

■表紙の鳥 Z 池を舞うチュウヒ（♂）

堺第 7-3 区で初めてチュウヒの繁殖を確認したのが 2006 年、2 つがいが生息し、1 つがいからヒナ 1 羽が巣立った。しかし、2009 年を最後にチュウヒの繁殖は途絶え、その後、メガソーラー事業等の大きな環境改変により、現在は冬期に少数が飛来するだけとなっている。

大阪支部では 2010 年よりカムバックチュウヒプロジェクトを立ち上げ、チュウヒの生息環境を守るために低木の伐採など草地維持の取り組みを行ってきたが、チュウヒの再度の繁殖は叶わず、2020 年に終了。現在は、チュウヒの動向に注目しながら鳥類調査を継続している。

湿地や草地の生態系の頂点に立つチュウヒがいつまでもこの地で生息できるよう見守っていきたい。

2024 年 1 月 15 日撮影（納家 仁）



堺第 7-3 区で見られる野鳥

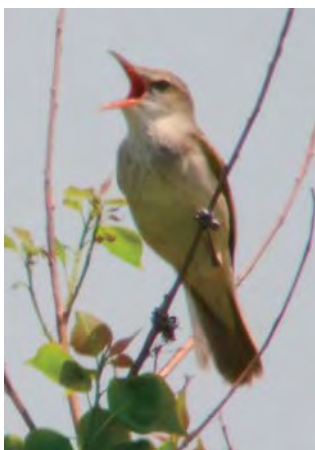


写真	左上から右下に
チュウビ	2025. 1. 14
ハイタカ	2021. 11. 16
ハヤブサ	2022. 10. 4
ミサゴ	2019. 4. 11
ノスリ	2024. 2. 19
ホシハジロ	2024. 3. 18
オオヨシキリ	2025. 5. 20
カイツブリ	2023. 6. 22
シジュウカラ	2022. 3. 22
セッカ	2023. 1. 23
セイタカシギ	2025. 5. 20
ソリハシセイ	タカシギ / タゲリ
	2023. 12. 11
オオジュリン	2024. 2. 19
ハラサギ	2022. 11. 15

堺第 7-3 区の環境の推移と野鳥生息状況の変化

1974(昭和49)年 産業廃棄物による埋立事業開始されてから約50年、この間の環境の推移と野鳥生息状況の変化を見てみよう。



1981 年 埋立初期 広い開水面と裸地



1987 年 埋立進行 1994 年 3 月には海面埋立完了



2004 年 2004 年 3 月、すべての埋立完了



2013 年 2011 年からメガソーラ事業稼働

・1987年頃までは府内最大規模のカモ類渡来地。後背地にはコミミズクが複数羽越冬。海水の出入りがあり、埋立途上の岸辺に干潟が形成され、シギ・チドリ類も多数渡来。
・海面埋立完了に伴い1994年以降ガンカモ調査中止。

・2004年から共生の森づくり開始
・2006年チュウヒの繁殖を確認。
・その後、森づくりや自然遷移による樹木の生育、メガソーラ事業により草地環境が大きく減少。
・2024年10月 共生の森（約100ha）が自然共生サイトに認定



1985(昭和60)年1月15日 ガンカモ調査時の写真
スズガモ1,433羽、カンムリカイツブリ202羽、ユリカモメ2,000羽±など 背景はタンカーと南港のマンション群

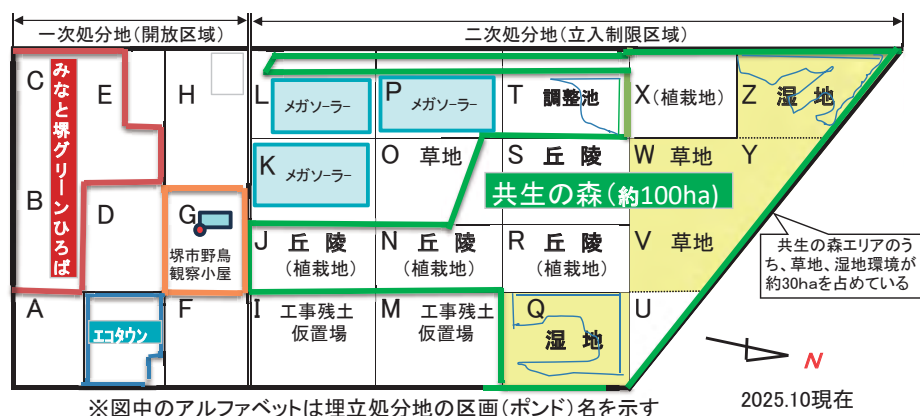


2009(平成21)年4月 チュウヒの生息にかかせない草地環境が広がっていた



2022(令和4)年10月 Z 池 ヨシに囲まれた水辺に水鳥が生息地盤沈下によってできた Z 池と Q 池、共生の森エリア外の T 調整池がカモ類などの生息地となっている

※空中写真は、大阪府ホームページから引用



日本野鳥の会大阪支部による堺第 7-3 区におけるこれまでの調査等の活動

- ①シギ・チドリ類生息調査：1982年から1987年まで春（4月29日基準日）・秋（9月15日基準日）に各1回実施
- ②ガンカモ類生息調査：1979（昭和54）年から1993（平成5）まで年1回（1月15日前後）実施、
※埋立の進行に伴い調査中止となったが、2005（平成17）年1月調査から再開し、以後継続中
- ③チュウヒ生息調査 2005年から2010年 ※2006年2つがい営巣、1羽巣立ち、2007年1つがい2羽巣立ち、2009年1つがい1羽巣立ち
- ④カムバック・チュウヒプロジェクト（草原環境維持のための樹木伐採や草刈り作業）2011年度～2019年度
- ⑤鳥類生息調査：チュウヒの生息調査とあわせて2007年から（概ね月1回継続中）2010年以降チュウヒの繁殖なし、越冬個体が生息

堺第7-3 区の野鳥 過去から現在

■はじめに

私たち大阪支部「堺第7-3区プロジェクトチーム」は、2010年にむくどり通信No.209（2010.9発行）の特集「生物多様性の保全 堺第7-3区のチュウヒの保護」の中で、2005年からのチュウヒの生息調査結果をまとめ、チュウヒの保護のための具体的な提言を行いました。又、あわせて2007年1月から2010年6月までの鳥類調査の結果（120種を確認）を紹介しました。

チュウヒに関しては、メガソーラの設置や隣接する堺2区埋立地の開発、共生の森づくりや自然遷移による草地の減少などの影響で、当地での繁殖は2009年を最後に確認できておらず、現在は夏期の生息はなく、越冬個体が少数飛来するという状況となっています。

大阪支部では2011年よりカムバックチュウヒプロジェクトを立ち上げ、チュウヒの繁殖地復活を目指し、Q池東側の草地の維持のための樹木伐採などの作業を行ってきましたが、成果は得られないままに10年が経過し、2020年に活動を終わらせたところです。

■これまで記録された鳥類について

今回、その後の当地での鳥類調査の結果と大阪支部が把握している過去の調査（4頁下段囲み参照）のデータを加え、改めて鳥類リストを作成しました。これまでの記録種は166種（ドバト除く）となりました（リストは大阪支部ホームページで公開）。

記録された166種を陸鳥と水鳥に区分すると、陸鳥75種、水鳥91種となっていて、水鳥の割合が少し多くなっています。目別の科数、種数の内訳は表1のとおりです。

カモ目、チドリ目の種数が合わせて71種となり、沿岸域に位置する当地の鳥類相の特徴が表れていると言えます。

■特筆すべき種について

記録された種の中で、レッドリスト該当種を表2にまとめました。

環境省レッドリスト該当種22、大阪府レッドリスト該当種55、IUCN（国際自然保護連合）レッドリスト該当種17で、計65種が記録されており、全確認種に占める割合は約40パーセントとなります。シギ・チドリ類のほとんどの種やオオヨシキリやセッカなどの湿地や草地環境に生息する鳥は環境の変化の影響を受けやすく絶滅危惧種に移行する可能性が高いものとして大阪府の準絶滅危惧種に指定されています。堺第7-3区にはそういった鳥が多く記録されているのが特徴です。

又、チュウヒをはじめとする猛禽類が多く含まれていることも当地の特徴を示すものです。

【レッドリスト区分】			
絶滅危惧ⅠA類：CR		絶滅危惧ⅠB類：EN	
絶滅危惧Ⅱ類：VU		準絶滅危惧：NT	情報不足：DD
環境省レッドリスト 2020 大阪府 2014 IUCN2016			

表1 堺第7-3区で記録された鳥類の陸鳥・水鳥内訳

区分	目名	科数	種数	区分	目名	科数	種数
陸鳥	キジ目	1	1	水鳥	カモ目	1	22
	カッコウ目	1	2		ツル目	1	3
	ハト目	1	2		カイツブリ目	1	4
	タカ目	2	8		チドリ目	5	49
	フクロウ目	1	2		ミズナギドリ目	1	1
	ブッポウソウ目	1	1		コウノトリ目	1	1
	キツツキ目	1	1		カツオドリ目	1	2
	ハヤブサ目	1	3		ペリカン目	3	9
	スズメ目	20	55	8目 14科 91種			
9目 29科 75種				合 計 17目 43科 166種			

表2 堺第7-3区鳥類重要種（レッドリスト掲載種）一覧

NO	日本鳥類目録NO	種名	環境省RD	大阪府RD	IUCN RD	生息状況（主な記録）
1	18	ツクシガモ	VU	—	—	まれ 2023/1/13 5羽など
2	23	トモエガモ	VU	—	—	少ない 2024/11/25 1羽など
3	28	ヨシガモ	—	—	NT	少ない 2021/10/19 8羽など
4	39	ホシハジロ	—	—	VU	多数越冬 2025/1/14 584羽など
5	59	ウミアイサ	—	NT	—	まれ 2025/3/17 1羽など
6	103	ヒキウチ	NT	VU	—	少ない 2024/6/17 1羽など
7	124	セイタカシギ	VU	—	—	2006、2007、2025年繁殖
8	127	タゲリ	—	NT	NT	少数越冬 2025/1/14 8羽など
9	128	ケリ	DD	NT	—	少数繁殖 2025/4/28（ヒナ2）など
10	130	ムナグロ	—	VU	—	まれ 2008/8/18 18羽など
11	131	ダイゼン	—	VU	VU	まれ 2007/8/22 1羽など
12	135	コチドリ	—	NT	—	少数繁殖 2024/5/17（雛3、卵1）など
13	136	シロチドリ	VU	VU	—	2006年繁殖、近年記録なし
14	137	オオメダイチドリ	—	NT	—	近年記録なし 大阪府鳥類目録1987
15	138	メダイチドリ	—	VU	EN	少ない 2025/4/28 4羽など
16	144	チュウシャクシギ	—	NT	—	少ない 2025/4/28 4羽など
17	146	ホウロクシギ	VU	NT	EN	まれ 2009/4/24 1羽
18	148	ダイシャクシギ	—	NT	NT	1990/8/26 1羽 近年記録なし
19	149	オオソリハシシギ	VU	VU	NT	近年記録なし 大阪府鳥類目録1987
20	150	オグロシギ	—	NT	NT	近年記録なし 大阪府鳥類目録1987
21	152	キョウジョシギ	—	VU	NT	まれ 2007/4/25 1羽など
22	153	オバシギ	—	VU	EN	まれ 2025/4/15 2羽など
23	154	コオバシギ	—	NT	NT	近年記録なし 大阪府鳥類目録1987
24	155	エリマキシギ	—	NT	—	まれ 2007/8/24 1羽など
25	156	キリアイ	—	NT	VU	まれ 2007/8/22 14羽
26	157	ウスランギ	—	VU	VU	まれ 2007/5/23 1羽
27	160	オジロトウネン	—	NT	—	近年記録なし 大阪府鳥類目録1987
28	161	ヒバリシギ	—	VU	—	まれ 2008/5/25 1羽
29	163	トウネン	—	NT	NT	少ない 2024/9/24 3羽など
30	164	ミユビシギ	—	NT	—	まれ 2007/8/24 1羽
31	165	ハマシギ	NT	—	NT	少ない 2024/9/24 1羽など
32	183	タシギ	—	NT	—	少ない 2024/9/24 1羽など
33	184	ソリハシシギ	—	VU	—	少ない 2025/5/20 1羽など
34	188	イソシギ	—	NT	—	少ない 2024/8/19 4羽など
35	190	クサシギ	—	NT	—	まれ 2009/9/15 2羽など
36	194	アカアシシギ	VU	NT	—	まれ 2008/5/30 1羽
37	195	コアオアシシギ	—	NT	—	まれ 2025/1/14 1羽など
38	196	タカブシギ	VU	VU	—	少ない 2024/9/24 1羽など
39	197	ツルシギ	VU	VU	—	まれ 2022/10/4 1羽など
40	198	アオアシシギ	—	VU	—	少ない 2022/10/4 10羽など
41	201	ツバメチドリ	VU	CR+EN	—	2008年繁殖、近年記録なし
42	233	コアジサシ	VU	CR+EN	—	2008年繁殖、近年繁殖せず
43	322	ヨシゴイ	NT	VU	—	まれ 2010.5.26 1羽など
44	332	アマサギ	—	VU	—	まれ 2025/5/20 3羽など
45	336	チュウサギ	NT	—	—	まれ 2025/5/20 2羽など
46	343	ミサゴ	NT	—	—	普通 周年複数個体生息
47	353	ハイタカ	NT	—	—	少ない 2021/11/16 1羽など
48	354	オオタカ	NT	NT	—	少ない 2024/10/21 1羽など
49	355	チュウヒ	EN	CR+EN	—	2006年～2009年繁殖 以降越冬個体のみ
50	358	ハイロチュウヒ	—	NT	—	まれ 2009/3/7 1羽など
51	368	ノスリ	—	NT	—	少ない 2024/10/21 1羽など
52	373	コミミズク	—	VU	—	まれ 2020/1/14 1羽など
53	404	コチョウゲンボウ	—	NT	—	まれ 2020/1/14 1羽など
54	407	ハヤブサ	VU	—	—	少ない 2025/9/22 2羽など
55	411	サンショウクイ	VU	VU	—	まれ 2024/4/22 2羽
56	450	ヒバリ	—	NT	—	少ない 共生の森エリア外の荒地
57	463	コシアカツバメ	—	NT	—	まれ 2023/5/18 1羽
58	476	センダイムシクイ	—	NT	—	少ない 2007/5/2 1羽など
59	484	オオヨシキリ	—	NT	—	普通 2023/5/18 さえずり個体41
60	497	セッカ	—	NT	—	普通 2023/5/18 さえずり個体35
61	514	トラツグミ	—	NT	—	少ない 2023/10/19 1羽など
62	537	コサメビタキ	—	VU	—	少ない 2025/9/22 3羽など
63	622	ホオアカ	—	NT	—	まれ 2015/1/20 1羽など
64	625	カシラダカ	—	NT	VU	まれ 2014/12/9 1羽など
65	637	オオジョリ	—	NT	—	少ない 2024/2/19 10羽など
65種			22種		55種	17種

■生息状況が変化した鳥

環境の変化に伴い、野鳥の生息状況も大きく変わってきています。草地環境が大きく失われたことでチュウヒの繁殖が見られなくなったこと、裸地や草のまばらに生えた造成地で繁殖するコアジサシやシロチドリ、ツバメチドリは姿を消しました。

草地で繁殖していたキジは、もともと個体数は少なかった鳥ですが、2018年以降生息が確認できておらず、このまま姿を消してしまうのか気になるところです。

植林活動により大きく育った「ちぬみ山」周辺の森には、シジュウカラが少数生息し、繁殖（2022/5/24幼鳥含む家族群）するようになりました。

共生の森エリアを中心にウグイスも増加（2023/6/22 さえずり個体32羽）し、托卵主であるホトトギスの生息も確認（2023/6/22 1羽）できるようになりました。

又、湿地（Z池）で夏期に多数生息（2007/5/2 74羽など）し、繁殖していたオオバンが繁殖期にはほとんど見られなくなってしまいました。池の水位が高くなっていることやタヌキやハシブトガラスなどの天敵の増加が影響しているのかも知れません。

2025年5月、Z池の水位が一時的に下がり現れた中洲にセイタカシギが営巣し、18年ぶりの繁殖記録となりました（下写真参照）。

他に顕著な変化のあるものとしてトビの個体数の増加があげられます。一次処分地にあるエコタウン内の食品残渣の飼肥料化プラント周辺にハシブトガラスとともに群れているものが多く、埋立地内の樹林地で集団ねぐらを形成するまでになっています（むくどり通信No.272 2022-3 P7）。

堺第7-3区の鳥類調査は月1回実施しています。調査対象面積が広いので、湿地（T調整池、Z池、Q池）では定点観察で個体数を記録。その他の場所は車でポイントを移動しながら出現種を記録していくという方法をとっています。生息している鳥類（特に陸鳥）をきれいに記録するという事は不可能ですが、今後も、継続してモニタリングしていきたいと考えています。調査は、立入許可を得て、少人数で平日に実施しています。調査に参加希望の方はメールで大阪支部事務所 main@wbsjosaka.xsrv.jp までご連絡ください。

■堺第7-3区でのネイチャーポジティブの実現を

堺第7-3区は、産業廃棄物による海の埋め立てという大きな環境破壊の後に、湿地や草地の環境ができ、多様な生き物が見られるようになった場所です。又、20年の歳月をかけて多くの人が共生の森づくりに関われ、森が着実に広がってきています。堺第7-3区はまさに環境再生の実験場ともいえる場所です。残念ながらチュウヒが繁殖できる環境は失われてしまいました。同じく危機的な状況にある渡り性水鳥のシギやチドリの渡来地となるように、残された湿地の環境改善を図ることが当面の大きな課題です。



メダイチドリ 2025.4 Z池

・残された湿地と草地の維持保全と環境の改善

湾岸部においては、森林ではなく草地や湿地環境が野鳥の生息地として極めて重要です。特に大阪湾岸部には湿地や草地環境はほぼ存在せず、当地に残された貴重な湿地や草地環境を保全するとともに、より多様な生き物が生息できるような環境改善の取り組みを進めることが望まれます。

・Z池、Q池の環境改善について

池の岸辺を緩傾斜とし、特にシギやチドリ類の採餌や休息の場として利用できる泥湿地を創出すること。地盤沈下が進行し、水位が高い状況となっているZ池では排水により水位調整を行うことや、土砂の投入によって浅場や中洲などを造成することが望まれます。将来的には海岸部に接するZ池については、南港野鳥園同様の人工干潟の造成が望まれます。

・草地の維持保全について

オオヨシキリやセッカなどの繁殖できる草地環境を維持保全すること。ヨシ原や草地の区域を定めての計画的な刈り取り、灌木などの伐採による自然遷移・森林化の防止、クズ対策などの実施が必須です。



2025年 セイタカシギが18年ぶりにZ池で繁殖 ヒナを見守る親鳥（左♀ 右♂）ヒナ2羽

6月17日、孵化後2、3日程度と思われるヒナ2羽を確認。5月20日に抱卵中であった巣の場所は水位上昇で完全に水没。2羽のヒナは巣の水没前に孵化したものと考えられる。

堺第 7-3 区 共生の森の未来

共生の森を含む二次処分地エリア（200 ヘクタール）については、数年のうちに一次処分地のように立入制限が解除される可能性があります。自然共生サイトである「共生の森」の広大な土地（100 ヘクタール）を一般の公園の様に管理し市民に開放するということは考えにくく、立入制限のあるサンクチュアリとしての活用が現実的ではないかと思います。

ここですらす鳥や生き物たちに、そして私たちの次の世代にどのような自然を引き継いでいけるでしょうか。



普段は人の出入りがないのでタヌキたちは日中でも行動している 2025. 3. 17



葉を食べるヌートリア

2024. 5. 17



シベリアイタチ 鳥の天敵のひとつ 2025. 4. 28

堺第 7-3 区の野鳥の様子を知りたいけれど、立入禁止で調査やイベントなどの時にしか入れないのでハードルが高いな—とお思いの方に、すでに共用開始され一般公開されている「みなと堺グリーン広場」と「堺市野鳥観察小屋」を紹介します。ここなら平日、休日、祝日でも自由に（ただし時間制限あり）野鳥観察ができます。

■堺市野鳥観察小屋を初来訪 なかなかいいやん！

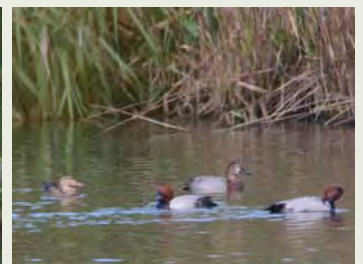
堺第 7-3 区のみなと堺グリーン広場北側にあるヨシ原に囲まれた小さな人工池（面積約 5600 平方メートル）の南側に堺市が 2021 年に野鳥観察用の小屋を設置しています。この場所、実はまだ、ほとんど認知されていない野鳥観察スポットです。私もごく最近までその存在を知りませんでした。

2025 年 10 月 15 日に初めて訪れましたが、ハシビロガモ 64、ヨシガモ 2、カルガモ 11、オナガガモ 3、コガモ 29、ホシハジロ 11、オオバン 10、カワセミ 1 等が観察できました。面積の割には鳥の数は多く、覗き窓からの観察もしやすくとてもいい感じでした。

これからの季節はカモ類などの水鳥が多く見られそうですし、猛禽類の飛来も期待できます。



ハシビロガモとホシハジロ



カルガモ、コガモ、オオバンなど

観察小屋の開放時間は、平日・休日・祝日、午前 10 時～午後 4 時（年末年始を除く）となっています。周辺部は立入禁止となっていますので、観察小屋の覗き窓から双眼鏡やスコープを利用して観察することになりますが、観察小屋までのルート周辺には草や低木が茂っていて、水鳥以外の鳥も観察できます。

観察小屋へは、みなと堺グリーンひろば駐車場からひろばを通り抜けて 800m ほどの距離を徒歩での移動となります。およそ 15 分の道のりです。

詳細は堺市のホームページ（以下）をご参照ください

<https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/saiseikozokai/yachoukansatu.html>

※当観察小屋での鳥類の記録を把握するため、この記事を見て現地に行かれた方は観察記録（種名、個体数）をぜひ大阪支部までお知らせください。（堺第 7-3 区鳥類調査担当 納家）



堺市野鳥観察小屋 鳥を驚かせずに近くから観察できる

日本野鳥の会大阪支部と(公社)大阪自然環境保全協会、国際自然保護連合日本委員会、(公財)日本野鳥の会、(公財)日本自然保護協会、(公財)世界自然保護基金ジャパン、大阪市立自然史博物館が共催。英国王立鳥類保護協会(RSPB)からお二人の専門家を招き、また大阪府や企業からの参加も得て、「大阪湾岸部の生物多様性を高めるために」をテーマにネイチャーポジティブの実現への課題等について、活発な議論を行いました。このシンポジウムは、大阪湾岸での干潟や湿地などの自然再生の実現に向けて市民や行政、企業の連携を進めていく第一歩となるものです。

シンポジウム会場に集まった参加者は132名、YouTubeライブ配信の視聴者は105名、大阪湾岸の未来について、関心の高さがうかがえました。

2025.9.15 開催



■当日のプログラム 2025.9.15 13:00~16:30 大阪市立自然史博物館講堂

来賓挨拶 マイケル・ブライス(在大阪英国総領事)、西村 学(環境省自然環境計画課課長)

基調講演 「沿岸域のネイチャーポジティブとは」 道家哲平(IUCN-J会長)

特別講演 ①「渡り性水鳥の危機的状況と大阪湾岸の重要性」ニコラ・クロックフォード(RSPB シギ・チドリ研究員) ②「沿岸生息地再生に関する国際的な事例研究から大阪湾を考える」ジェフ・キュー(RSPB湿地再興アドバイザー)

パネルディスカッション 「大阪湾岸の生物多様性を高めるために」

話題提供 ①「大阪湾シギ・チドリ渡来地復元計画」納家 仁(本会大阪支部長)

②「大阪府の生物多様性保全の取り組み」織田智也(大阪府環境農林水産部みどり企画課副主査) ③「積水化学グループでの取り組みの紹介」三浦仁美(積水化学工業(株)ESG経営推進部環境経営グループ長)

ファシリテーター 佐久間大輔(大阪市立自然史博物館学芸課長)



RSPBのニコラ・クロックフォードさん(左)とジェフ・キューさん(右)

シンポジウムの様子は
大阪市立自然史博物館動画サイトで
2026年3月まで見逃し配信中

シンポジウムの概要は以下のとおり

基調講演 「沿岸域のネイチャーポジティブとは」

基調講演では、国際自然保護連合日本委員会の道家哲平会長が、ネイチャーポジティブ基礎、ネイチャーポジティブ実現に向けたさまざまな動きなどを解説。海の生物多様性と寿司ネタを例にネイチャーポジティブの重要性を分かりやすく説明された。又、世界のGDPの半分に相当する44兆ドルが自然資源に依存したもので、自然の喪失によってGDPが大きく影響を受けることから、生物多様性の危機を生み出す現在の社会システムを変革することが必須であり、大きなビジネスチャンスであること。ネイチャーポジティブの世界的な23の行動目標ができ、変革の風が吹いてきていること。ネイチャーポジティブの実現のためには「ネイチャーポジティブ発想10原則」を頭に入れて、様々な主体が連携しながら行動していくことが必要であるとまとめられた。

特別講演 「渡り性水鳥の危機的状況と大阪湾岸の重要性」

ニコラさんが、東アジア・オーストラリア・フライウェイ(EAAF)の中での日本の干潟とそして大阪湾の重要性を解説。特に絶滅危惧種であるヘラシギの回復活動を優先事項として取り組んでいて、壊滅的な減少に見舞われている要因が黄海や日本などのEAAF沿いの沿岸湿地の消失であること。黄海や韓国セマングムでの干潟の破壊によりEAAFを利用する渡り鳥の個体数が大きく減少したことが分かり、中国と韓国政府への働きかけにより残された干潟を世界遺産に指定することに成功したことが紹介された。大阪湾はEAAFにおける国際的に重要な拠点の一つであり、南港野鳥園とその対岸の夢洲は国際的にも重要な湿地であったこと。万博会場として開発される前の夢洲はEAAFのネットワークサイトである南港野鳥園よりもはるかに多くの鳥類が利用していたこと。大阪湾沿岸湿地を復元し、適切に管理すれば、苦境に立たされているEAAFの水鳥個体群の回復だけでなく、昆明・モントリオール世界生物多様性枠組みに基づく日本のコミットメント、大阪関西万博が掲げるSDGsの達成にも大きく貢献できるとした。

「沿岸生息地再生に関する国際的な事例研究から大阪湾を考える」

ジェフさんは、沿岸生息地を保護、回復することの意義(海面上昇やその他の気候変動への対応、洪水リスク軽減などの社会的便益、漁業資源の維持など)を解説。RSPBが実際に取り組んでいる事例をいくつか紹介された。又、南港野鳥園が潮の干満を利用した塩性湿地として設計と運用が優れているとして、同様の方式を大阪湾で大規模に展開することを提案された。

パネルディスカッション「大阪湾の生物多様性を高めるために」

話題提供として、私から「大阪湾シギ・チドリ渡来地復元計画」と題し、大阪湾岸での干潟や湿地の復元候補地(貯木場等)やすでにある人工干潟の現状や改善の提案を行った。織田智也さんからは大阪府の生物多様性保全の取り組みについての紹介があり、積水化学工業の三浦仁美さんからは、企業としての取り組みが紹介された。

その後、ファシリテーターの佐久間さんの進行でディスカッション。大阪湾でのネイチャーポジティブの実現に向けて、課題や問題意識を共有することができた。

一大阪支部のホームページに当日の会場の様子や配布資料、発表資料(一部)、アーカイブ配信の案内等を掲載しています。

ぜひ、ご覧ください。(納家)

■大阪市を表敬訪問 翌9月16日、大阪市環境局を訪ね環境局や大阪港湾局の担当課長らにシンポの様子を報告。夢洲での干潟や湿地の復元についての意見交換を行った。夢洲のまちづくり構想の中に失われた湿地の復元を明確に位置づけし、大阪湾岸にシギやチドリの渡来環境を広げていけるよう引き続き働きかけていきたい。



写真左から大野正人(日本自然保護協会)、納家、加賀まゆみ※、ニコラ、ジェフ、道家、垣井清澄※、山下博美(立命館アジア太平洋大学) ※大阪自然環境保全協会



多くの鳥は春から初夏に繁殖します。その大きな理由は、ヒナに与える食物資源が豊富だからです。林で繁殖するスズメ目鳥類の多くは、春に活動を開始した昆虫が豊富になる季節を狙って繁殖します。魚を食べるカワウには、そんな季節の制限はあまりありません。そのため少なくとも温暖な地域では、一年中繁殖可能。それでもなぜか繁殖期があり、同じ繁殖地の繁殖期が変化したりします。という訳で、今回はカワウの繁殖に注目してみます。テーマは、カワウの繁殖期が始まる季節。

●日本各地のカワウの繁殖期

福田(2002)は、1980年代～1990年代の日本のカワウの繁殖地4地域(青森県、東京都、愛知県、滋賀県)の繁殖期を整理し、日本全体を見渡せば、一年中いつでもどこかでカワウが繁殖していることを示しました。

ただし、4月～8月はすべてのエリアで繁殖していたのに対して、9月～1月に繁殖していたのは、9月に繁殖を始める東京だけでした。さらに、「不忍池コロニーと、その一部の個体によって形成された大田区の小コロニーでの繁殖期間を合わせると、一年中繁殖活動が観察された年もあった」(福田1997)といえます。

1996年から繁殖を始めた埼玉県武蔵丘陵森林公園のコロニーでも、8月に繁殖を開始し、翌年6月まで繁殖期が続くといえます(福田2002)。関東地方にだけ、秋に繁殖を開始する集団がいるかのようです。

近畿地方のカワウは、1970年代には繁殖していなかったのが、1982年の滋賀県竹生島を皮切りに復活しました。復活当初、その繁殖期は2月から8月まで(福田2002)。日本全体はいざ知らず、近畿地方では秋から冬は非繁殖期でした。

●繁殖開始の早期化

東京上野の不忍池でカワウが繁殖を始めた当初、「産卵は11月からであったが、群の拡大とともに早期化」して、9月から繁殖を始めるようになったといい



図1 カワウの営巣 2021年1月 大津池(納家)

ます(福田2002)。こうした繁殖開始の早期化は、昆陽池(兵庫県伊丹市)をはじめ、関東地方以西の日本各地で知られています(加藤2017)。

2003年にカワウの繁殖が始まった大津池(堺市東区)では、2003年は2月に繁殖を開始したのですが、2008年には1月から繁殖を開始し、2018年には11月からもう巣をつくっているペアがいました(和田未発表)。今や非繁殖期は9月と10月だけです。

ただし、こうした早期化が起きていない繁殖地もあります。垂仁天皇陵(奈良市)のコロニーを2023年～2025年に観察しましたが、繁殖期は2月半ば～3月に始まり、3年の間、早期化は起きませんでした。

●野外で実際に観察してみよう

繁殖開始の早期化が起きた近畿地方のカワウのコロニーでは、11月になるとそろそろ巣づくりが始まります。関東地方のことを考えると、今後さらに早期化する可能性もあります。そして、いつか一年中繁殖するようになる?

福田(2002)はコロニーが大きくなると早期化が起きると考えていたようです。堺市大津池での早期化も、集団が大きくなるとともに生じ、コロニーの密度と関係があるように思っていました。しかし、2022年に繁殖を始めた長居公園大池(大阪市東住吉区)では、20巣弱の小さなコロニーであるにも関わらず、密度的もスカスカなのに早期化が起きました。最初の年は2月に繁殖を開始したのが、2年目は11月に繁殖を始めたのです(和田未発表)。なにが早期化を引き起こすのかよく分からなくなっていました。そもそも一年中繁殖可能なカワウに繁殖期や非繁殖期があるのも不思議な気がします。このようにカワウの繁殖期にはさまざまな謎があります。

繁殖の始まりは巣づくりから。枝をくわえて飛んでくるカワウがいたら繁殖期に入った証拠です。池などでカワウを見かけたら、巣材を運んだりしていないか気をつけてみてはいかがでしょうか? 秋や初冬こそが狙い目。さらなる繁殖開始の早期化のきざしを見つけることができるかもしれません。

●引用文献

- 加藤七枝(2017) カワウの生態と最新の生息状況 科学的な対応のために、平成29年度鳥獣保護管理に係る人材育成研修会<上級編 カワウ>。
https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort5/effort5-3b/a_kawa.pdf (2025.10.12 参照)
福田道雄(1997) カワウの創設コロニーと小形サブコロニーの関係。日本鳥類標識協会誌 12: 31-38。
福田道雄(2002) 日本におけるカワウの繁殖生態。日本鳥学会誌 51: 116-121。

和田 岳(わだ たけし): 本会幹事、大阪市立自然史博物館学芸員。HP「和田の鳥小屋」

<http://www.omnh.jp/wada/wada-index.html>



今号からこのページを書くことになったカラスです。カラスは去年から本誌の校正にいっちょかみしている大阪市内在住のバーダー 4 年生。新米の立場で何を書けるか？改めて本誌をじっくり読んでみる。そうそうたるメンバーが執筆されている。探鳥会報告は現場の空気感がにじみ出てるし、「こんな鳥見たよ」のコーナーなんて素敵な写真ばかりやん！こりゃ、まづい！専門的なことを書く知識はないし、撮影の技術も初心者だ。ここは開き直ってカラスの「新米ぶり」を書いてみることにしたよ。ハハハと笑ってもらえたら嬉しい。

カラスのオットは山が大好き。ヒマさえあれば山地図を広げて「どこ行く〜？」と問いかけてくる。それに便乗して山にお付き合いしながら、野鳥に出会える場所を探すのがいつものパターン。今回はそんな非日常を書くね。

7 月。オットの目的地は尾瀬周辺と燧ヶ岳。関西から尾瀬に行くには空港からレンタカーが便利らしい。今回は福島空港からレンタカーのコースになった。調べてみると野鳥が多いのは水辺。つまり尾瀬沼一周は外せない。ウォッチングは尾瀬沼ヒュッテに宿泊した翌日になった。カメラを持って行きたいけど山小屋泊だから荷物は軽くしたい。非力なカラスはジレンマに陥った末、150 ミリのレンズを選択。リュックの外に装着するバッグを新調した。実は店頭でリュックの肩に着ける器具にも心惹かれた。サッとカメラを構えられてラクそうだし、検討の余地はある。雨が降ってきたらどうするんだろ。ちょっとお値段は高めだけどね。

尾瀬沼一周当日は曇り空で小雨予報もあり。ここ数日は毎日 15 時過ぎに激しい夕立があったそう。午前中にサクッと回ろうというオットの言葉に内心「そうはいかんで〜」とニヤリ。歩き始めるといきなりエナガとシジュウカラの混群に遭遇。速い動きにブレブレで写真はナシ。きっぱり！

エナガが去った後に現れたのはキバシリ。針葉樹の枝をツツっ〜と走る、走る〜。次に現れたのはお馴染みのゴジュウカラ。尾筒部（お尻）の市松模様がオシャレで好きなんだー。この日は見せてくれなくて残念だった。



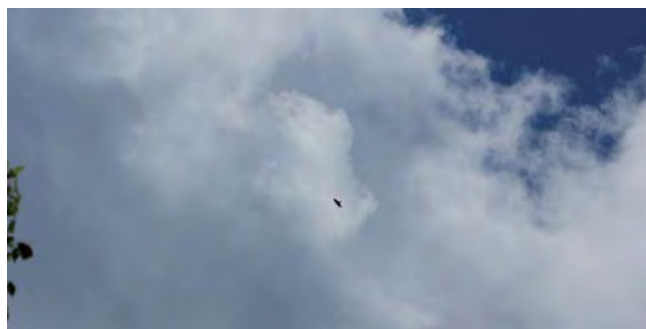
ゴジュウカラの市松模様（お尻を見て！）



尾瀬沼の沼尻休憩所を過ぎる辺り、モズが湿原と立ち木を行ったり来たり。こちらをじっと見ていた。威嚇されてる？ 見つめあう時間がたまらないね。



翌日はオット念願の燧ヶ岳に無事登頂。頂上から見下ろす尾瀬沼は絶景だった。上空には山小屋へ物資を運ぶヘリコプターが飛び、そのそばをトビが数羽舞っていた。カメラはかろうじて影を捉えたよ。ちっさ〜。



実はずっと耳にした鳴き声があったんだ。姿は確認できず録音した音源をいろんな人に聞いてもらったけど未確定。ネットを駆使して野鳥の会群馬支部さんにたどり着き、音源を送った。なんと翌日に速攻で返信あり！メボソムシクイだった。ご担当のフカイさん、ありがとうございました！

さて。この記事がみんなの手元に届くのは 11 月。日記を見ると昨年 11 月はすっかり秋。うちの近所はモズがやたら多かった。公園にはクイタダキやムギマキが現れたと書いている。今年も会えるかな。

かもめコーヒーに来店したバードウォッチャーと店主岡林さんとのやり取りや鳥談議を皆さんにも楽しんでいただくという企画。今回のお客さんは、店主と中学時代の同級生の川村亜矢子さん。

3 年ほど前からコーヒー豆を買いに来られていて、昨年、パウンドケーキを食べるのに喫茶コーナーを初めて利用されたときに、粉浜商店街の肉屋さんの話題になって「あそこのコロツク美味しいね」「同級生がやってるねん」という話から、私も同級生という話になって、店主と川村さんがクラスは違ったけれど同級生だったことが分かったということ。今は、店主の奥様とも仲良くなって、ほぼ毎日来店されるように。来店するときには「ただいまー」て、あんたの家ちゃうやろ・・・いつもニコニコ笑顔の絶



えない川村さん、かもめコーヒーでのひと時がストレス解消には欠かせない。最近は大和川でユリカモメの可愛さに目ざめたという川村さん、さてどんな話になるでしょう

かわむら あやこ
川村 亜矢子 さん



コウパンちゃん

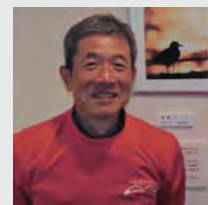


邪エナガさん

かもめコーヒー

大和川から北へ速足で歩けば 30 分、地下鉄玉出駅から南海線粉浜駅からなら歩いて数分、住之江区粉浜にある「かもめコーヒー」。

こだわりの自家焙煎のコーヒー豆の販売だけでなく、喫茶コーナーが設けられ、挽きたての美味しいコーヒーを飲むことができる。店主の岡林 猛さんは、かもめコーヒーの名前からわかるように野鳥の中でも特にカモメを愛するバーダーだ。



おかばやし たけし
岡林 猛 さん
1959 年生まれ
本会会員
鳥見歴 46 年
カモメ観察歴 33 年

大和川の橋を自転車で走っていたら 1 羽のかもめが頭上をゆっくり・・・

■かわいいものが好き

川村：私、コウパンちゃんのキャラクターが大好きで、邪（よこしま）エナガさんも好き。鳥の雑貨やグッズもついつい買ってしまう。ここにもいろいろ鳥の雑貨が置いてあって見るだけで楽しいです。もともと、商店街で美容院をしていた母が、鳥や犬が好きで、オウムも長く飼っていたんです。おばあちゃんが歌うのをまねてよく歌っていた。今もコザクラインコが 2 羽いるんですよ。私は世話するのが面倒やからあまり好きでなかった。鳥よりも猫の方が好き。

岡林：かわいいものが好きというけど、野鳥は、かわいさやきれいさを売って生きているんじゃないけど。美しくてすごい生き物というのがいいかな。

川村：大和川の橋を自転車で越えているときに、1 羽のかもめが頭の真上を低くゆっくり飛んでいったんです。海の方へ飛んでいくのをいつまでも見ていた。

岡林：そんなこともあって、かもめを観察したいということで、9 月 25 日に初めて一緒に大和川に鳥見にでかけたんですね。あの時は、貸してあげた双眼鏡を逆に覗いて、見えへん！って、そんなレベルやったね。

川村：ハハハ・・・、かもめはかもめ。種類がいろいろあるなんて知らなかった。ただ、みんな同じ方向を見て並んでいるのがかわいかった。

岡林：今の時期はウミネコがほとんどで、セグロカモメが少なくて、そろそろユリカモメが増えてくる。それにオオセグロカモメとカモメを足した基本の 5 種を覚えたらいい。カモメのかわいさが分かるとウミネコの目つきの悪さがわかる、セグロはかわいけれど、オオセグロは悪役の顔やとか。

■大和川通いを開始

川村：あれ以来、楽しくて大和川にほぼ毎日行ってます。ユリカモメが見たいと思って、やっと昨日 1、2 羽見た！今はユリカモメが一番お気に入りです。

岡林：スマホで撮ったものを拡大して見たけどユリカモメに間違いなし！

川村：ウミネコとは目つきが違うのが初めて分かった。それからウミネコが魚をくわえたまま飛んでいるのも見たんです。動いていたのできつと魚やと思う。

岡林：ウミネコが魚を捕るところは、僕も見たことない。いいところ見たやん。

川村：捕ったところではなく、くわえて飛んでいるのを見たんですけどね。

岡林：大和川にいるウミネコなどのカモメは、水浴びや休憩に集まっていて、ここでは餌を捕るものはないんで。日中はここでゆっくりして、それで夕方になれば海に帰っていく。ユリカモメの夕方のねぐら入り前の飛び立ちは大和川の冬の風物詩。何千羽が海に向かって飛んでいくのは、壮観。これはぜひ見てほしい。

川村：見たいです！

岡林：それからユリカモメがかわいいからとパンなどを与えないでほしい。

川村：私は大丈夫です。以前、孫と一緒に住吉公園でハトにパンをあげていたら、すごい剣幕で注意され、あれ以来、鳥に餌をやったりはしていない。でも住吉公園ではアオサギが顔を覚えているのか、寄ってくる。商店街ではカラスとよく目があうし、これも顔を覚えられてると思う。みんな餌をくれると思って寄ってくるんですよ。

岡林：コンビニの袋をくしゃくしゃとするだけでも寄って来よう。カラスの場合は顔まで覚えるというのはあるやろね。

■残念無念のワライカモメ・・・

川村：ところで、昨日はとっても悔しがってましたね。タッチの差で珍しいカモメが飛んでしまったと。

岡林：そうやねん。ちょうど昼ご飯を食べる最中に、梅垣君から「ワライカモメ出た！」と電話をもらって。そのまま食事をほって家を出たらよかったんやけど、駐車場に車を停めたときに、川を見

たらウミネコが飛び回っているやない。嫌な予感がして現場に着くと、どうもハヤブサが来たらしくて、全部飛んでしまった後、中州に戻ってくるウミネコの中にいないか必死で探したけれど・・・見つからず。ワライカモメは自分が最初に見つけたかったし、今回はタッチの差で見ることでもできなかった…。大和川で鳥を見ていてこれまで一番悔しい思い。こういう珍鳥はまた来年同じ時期に来るかも知れないし、それを期待してます。

■バードウォッチングを楽しもう

岡林：川村さんの趣味って何でした？

川村：硬式テニスと登山かな。テニスは今も試合に出たりしてます。

岡林：テニスはダブルスで自分は走らずにペアを走らせているという話やね。登山も足は使わずケーブル利用やろ。

川村：体力落ちているのでね・・・「あなたはいつも笑ってくれるだけでええねん」と皆さん許してくれる。試合後の打ち上げでわいわい飲むのが楽しみ。

岡林：分かる…。そうや、来年の GW あたりに、一緒に山歩きしよう。

川村：双眼鏡をもって行かないとね。

岡林：山の鳥は姿を見つけにくいよ。きれいなオオルリやキビタキかがさえずっているところが見られたら感激やで。

川村：私はきれいな鳥より、かわいい鳥がいい。

岡林：こんな鳥（図鑑のサンコウチョウを指して）もいるよ。

川村：なんかカエルみたい・・・

岡林：カエルには見えんやろ。そうや、大阪支部の探鳥会に参加されるといい。バーディといって家族連れ中心のものもあるので、お孫さんを連れて参加するのもいいんちゃうかな。ビギナーにはぴったりやし、子供同士で仲良くなったり。川村：それは楽しそう。まずは双眼鏡を買わないとね。

2025.10.10 かもめコーヒーにて

第29回 600種目指し憧れのモンゴルへ予習の旅

モンゴルは日本では珍しい鳥が普通に繁殖し、バードウォッチャーには人気の国です。今後国内600種を目指す上で発見の可能性がある種が多く生息しており、勉強の為に行ってきました。

ツアーは未舗装のがたがた道を1日8時間以上走るハードな行程でしたが、移動中も色々見られてよかったです。南ゴビへ1日未舗装路300kmの予定が予想外のカタカタ道で速度を出せず、予定変更で手前のゲルに宿泊。翌日は近道のはずが行く手を枯れ川の段差に阻まれ万事休す。結果遠回りになってしまいましたが、道なき道を走って素晴らしい風景に出会い、サケイパラダイスを発見。サケイを蹴散らしながら、ようやく南ゴビホンゴル砂丘に到着しました。翌日はツアーの目玉、ホンゴル砂丘から驚の谷に向かいました。砂漠超えは7人乗った重いアルファードでは厳しいので、救援車のハリヤーと並走。案の定スタックして、一度目は人力で、二度目は動かずハリヤーで牽引。止まったらスタックするので、つなげたまま砂漠を爆走して、無事通過しヒゲワシやコシジロイソヒヨドリ、イワシャコ、カベバシリを堪能しました。帰りは舗装路を11時間走ってテレルジに到着、そこでは新たに森林の鳥12種増えてトータル153種で終了となり、日本的珍鳥オンパレードのコスパの高い旅となりました。以下は今回撮影できた国内ライファーの鳥を紹介します。



ゴビズキンカモメ *Ichthyophaga ichthyaetus* 【Relict Gull】

今回のツアーコースでは見られないと諦めていたが、見ることができて感動した。神奈川、久米田池、鳥取で記録があり、まだどこかで冬羽個体を見てみたい。



ヒメチヨウゲンボウ *Falco naumanni* 【Lesser Kestrel】

昼食に立ち寄った集落で10数羽が群れ飛んでいた。近くの煉瓦作りの建物で並んで休息していて、白い爪は思った以上

に分かりやすい。国内では渡りの時期に各地で記録があるので、石垣島や与那国島で見つけられそう。



コウテンシ *Melanocorypha mongolica* 【Mongolian Lark】

大きくてヒバリ類ではよく目立ち、翼のパターンは特徴的で飛べばすぐ分かる。モンゴルではよくディスプレイフライトをしていた。正面から見るとキノコ頭が特徴でかわいい。沖縄や一色町で見たクビワコウテンシより生息地は近いし、天売島、飛島、甕島、座間味島で記録がある。



ワクスジハヤブサ *Falco cherrug* 【Saker Falcon】

大型のずんぐり体型でモンゴルでは普通に見られ、韓国でも記録がある。宮古島の観察例もあるので見つけたい。英名由来のセーカーハヤブサの方が聞こえは良い。



ヨーロッパアマツバメ *Apus apus* 【Common swift】

岩山地帯より人家周辺で見られた。もっと近くで撮れると思っていたら撮影チャンスは少なかった。真上を飛ぶのでアマツバメと区別するのがややこしいが、尾羽が長めなので白い腰が写ってなくても写真判定できそう。与那国島で2度触倉島でも記録があるので発見の可能性は高そう。



ルリガラ *Cyanistes cyanus* 【Azure Tit】

利尻島で1度記録があるだけ。日本海を隔てたロシアと中国の境界あたりにも生息しているので、もっと飛来しても良いと思うのだが。美しいカラ類なので国内で見たい。



サケイ *Syrhaptes paradoxus* 【Pallas's Sandgrouse】

南ゴビの乾燥地帯では餌場や水場にたくさんのサケイが群をなして集まっていた。水を飲みに歩いてヒョコヒョコ寄ってくる様はまるでサケイ牧場。ワシタカ類が少ない乾燥地では優先種で、多いところではトータル数千羽は見たが局地的。本州、九州、石垣島などで記録がある。



ノジロムシクイ *Curruca communis* 【Common Whitethroat】

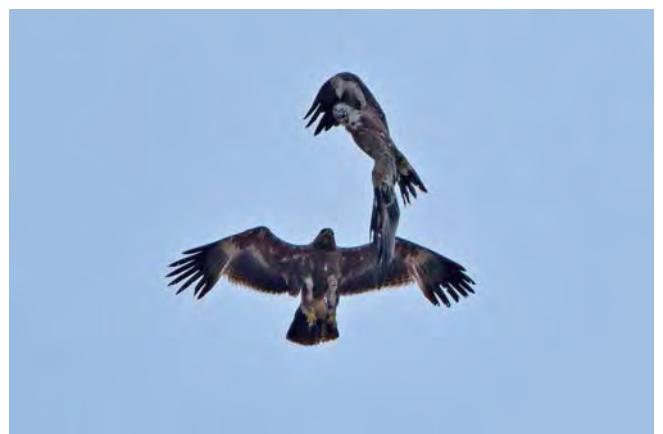
モンゴルより西に広く分布していて飛鳥で記録がある。鷲の谷の灌木で見られた。個体数も少なくないので、いずれどこかで見つかる種だと思う。



コシジロイソヒヨドリ *Monticola saxatilis*

【Common rock thrush】

岩場が続く環境で何度か遭遇した。腰白ではなく実際は背中が白い。生息場所は局地的。写真は雄。静岡と対馬で記録はあるが、日本で見られる可能性はかなり低そう。



ソウゲンワシ *Aquila nipalensis* 【Steppe-Eagle】

高原の開けた草原で見られ、岩場にも巣があった。同じような環境でイヌワシも見られ、棲み分けが興味深い。絡んでいるのはヒマラヤハゲワシ。岡山の高原で撮影されたが、確実に種と断定できない写真だったので検討種となっている。

今回の旅で国内種の写真は海外分を含めると600種越えとなり、国内限定だと概算で残り20種余り、先が見えてきた。

小山慎司（こやましんじ）：本会会員

国内での600種撮影を目指し、探鳥の旅を続ける。

■探鳥会報告 <2025 年 7 月～ 9 月>

●…多い ○…普通 ▲…少ない
△…稀 ×…ごく稀

番 号	種 名		月	7月	8月			9月				出 現 回 数	
			日	5	6	10	15	17	20	23	28		
			場 所	平成 榛原子 供のも り公園	平日 豊中赤 坂下池	バー デー 平城宮 跡歴史 公園	ご長 寿 長居植 物園	平日 大阪公 立大学 附属植 物園	淀川 河口 矢倉緑 地	バー デー 大阪南 港野鳥 園	U50 石清水 八幡宮		
32	●	カルガモ				○	○				○	○	4
33	●	マガモ		○							○		2
35	●	コガモ									○		1
89	●	キジバト		○		○	○	○	○	○	○	○	7
117	●	カイツブリ			○						○		2
131	▲	ダイゼン									○		1
134	▲	イカルチドリ		○									1
135	○	コチドリ		○									1
144	○	チュウシャクシギ									○		1
163	○	トウネン									○		1
184	▲	ソリハシシギ								○	○		2
188	○	イソシギ						○	○	○	○		3
192	○	キアシシギ								○	○		2
194	△	アカアシシギ								○			1
198	▲	アオアシシギ									○		1
221	○	ウミネコ									○		1
315	●	カワウ		○		○	○			○	○	○	6
328	○	ゴイサギ			○								1
330	▲	ササゴイ								○			1
333	●	アオサギ		○		○		○	○	○	○	○	6
335	○	ダイサギ		○		○				○	○	○	5
337	○	コサギ			○					○	○		3
343	○	ミサゴ		○						○	○	○	4
344	▲	ハチクマ										○	1
352	▲	ツミ										○	1
353	▲	ハイタカ		○									1
359	○	トビ		○						○	○	○	4
363	▲	サシバ										○	1
384	○	カワセミ		○			○	○	○	○	○		5
390	●	コゲラ		○			○					○	3
399	○	アオゲラ		○									1
425	●	モズ									○		1
427	○	カケス		○									1
435	●	ハシボソガラス		○		○	○		○	○	○	○	6
436	●	ハシブトガラス		○			○	○	○	○	○	○	6
442	●	ヤマガラ		○							○		3
447	●	シジュウカラ		○	○			○	○	○	○	○	7
450	●	ヒバリ						○					1
456	●	ヒヨドリ		○		○	○	○	○	○	○	○	7
461	●	ツバメ		○	○	○	○	○	○		○		6
462	▲	イワツバメ		○									1
463	▲	コシアカツバメ		○								○	2
464	●	ウグイス		○									1
467	●	エナガ		○			○					○	3
481	○	メボソムシクイ										○	1
484	○	オオヨシキリ			○								1
497	●	セッカ				○							1
501	●	メジロ		○				○	○		○	○	5
507	●	ムクドリ		○		○	○			○	○		5
533	▲	エゾビタキ						○			○		2
537	○	コサメビタキ		○				○					2
539	○	オオルリ						○					1
564	○	イソヒヨドリ		○	○	○				○	○	○	6
575	●	スズメ		○	○	○	○			○	○	○	7
584	●	キセキレイ		○									1
585	●	ハクセキレイ		○		○	○	○	○	○	○		6
586	●	セグロセキレイ		○				○					2
608	●	カワラヒワ		○		○				○		○	4
618	●	ホオジロ		○									1
－	●	ドバト		○		○	○			○	○		5
－	△	ソウシチョウ				○							1
天 候				晴	晴	雨	晴	晴	曇	曇	晴	－	
種 数 合 計				35	8	17	19	12	23	33	23	－	
参 加 者 数				36	25	22	25	15	33	22	9	187	

【8月号 探鳥会報告の訂正】

むくどり通信8月号 14 ページの探鳥会報告<2025 年 4 月～ 6 月> 5 月 11 日 U50 甲子園浜 247 トウゾクカモメ
を 248 クロトウゾクカモメと訂正いたします。

これは、後日、U50 リーダーが撮影した当該個体の画像を日本野鳥の会ひょうごに提供したところ、ひょうごの方から海鳥
観察のスペシャリスト 箕輪義隆氏に同定を依頼し、クロトウゾクカモメと考えられるの回答があったためです。

○平成榛原子供のもり公園 <7/5>

平成榛原子供のもり公園への探鳥会、初めて参加しました。お天気はすでに梅雨が明けた後の晴天、スタート前に水をしっかり準備し、リーダーから塩飴の配布もありました。6月上旬に申し込んだのですが、これほど暑くなるとは想定外の気温。

そんな中、あのヤマセミに出会えるかも？との期待を胸に榛原駅を出発。ツバメが上空を飛びまわり、軒にあるツバメとコシアカツバメの巣の違いも教えてもらいました。

その後、宇陀川沿いを歩くと、セグロセキレイやキセキレイが何羽も見ることができ、北国へ帰れなかったマガモも1羽発見。さらにダイサギ、アオサギが次々と飛来。

まもなく平成榛原子供のもり公園の駐車場が見えてくるとそこにはカメラマンが数名いたが、残念ながらヤマセミは現れていない様子。公園の宇陀川が見える木陰で休憩、川をカワセミが横切ることがあるということなので、みんなで川を見ながら昼食をいただきました。

さらに室生ダムに向けて進むと、河原にコチドリを発見、上空ではトビとミサゴが見られました。ヤマセミは見られないが、そのかわりにトビが大サービスで低空飛行、羽や尾の姿をしっかりと観察させてくれました。暑さのせいか水浴びにトビが河原に降りていました。さらに公園に戻った時には、芝生の上にカラスと思いきや、なんとトビが歩いてエサをついばんでいました。

残念ながらヤマセミを見ることができなかったのですが、カメラマンによると数日前にペアを見たので現在抱卵中ではとのこと。あのヤマセミが繁殖してくれていそうなのでよかったです。次回が楽しみです。

暑い中でしたが、木陰では風の心地よさを感じながら、一日探鳥を楽しむことができました。リーダーのみなさんありがとうございました。

藤澤佳津男さん



トビ水浴び
平成榛原子供のもり公園

○平日 豊中赤坂下池 <8/6>

ツバメ激減。例年は約1万羽、下見時は3千羽ほど、この日は千羽足らずでしょうか。空を埋め尽くす大集団の飛来や、電線にズラリと並ぶお馴染みの風景は見られませんでした。別のねぐらにお引越しの繁殖時期・移動の前倒しなのか理由は不明ですが、少ないながらも百数十羽が何度か上空を賑わせ、猛スピードで水面スレスレを飛ぶ姿、ヨシにとまる姿は健在でした。なお、あろうことか警察の職質を受けた私たち。薄暮の住宅街での観察ですから、ツバメのカムバックを期待しつつ、来年は地元行政（警察）への事前告知も一案かもしれませんね。

○バーディ 平城宮跡歴史公園 <8/10>

数日前の熱中症警戒アラート発表、一転、前日の雨の予報などにより、申込み36名のうち22名の方がキャンセルで14名の方々がおいでになり、当日の飛び入り参加2名、リーダー6名の総勢22名で、あいにくの小雨の降り続く中、ツバメのねぐら入りを観察しました。

途中の佐保川を泳ぐカルガモ、上空を飛ぶダイサギ、地上や電線のハシボソガラスなどを観察し、平城宮跡歴史公園へ。草地でエサをさがすヒバリ、梢で群れるカワラヒワなどをじっくりと観察。大極殿周辺を複数のイソヒヨドリが活発に行動。子どもたちは、草むらにいるバッタやイナゴにも興味津々。

だんだんと回りが暗くなると、上空を飛ぶツバメの群れを発見、どんどん数が増え、頭上間近を大集団となって飛ぶ姿に一同感激。

晴れた日には、集まり始めてから、ねぐら入り完了するまで30分前後かかるのが、雨で暗くなる時間が早かったためか、およそ20分で完了。



ツバメのねぐら入り 平城宮跡歴史公園
(8月3日下見時に撮影)

○第4回 ご長寿探鳥会 長居植物園 <9/15>

9月4日の下見で、小池や溪流の周辺が野鳥が集まる場所だと判ったので、当日は正門に入って大池の左側の道路を直進し、シジュウカラ、エナガ、コゲラ、今年生まれの幼鳥を交えたムクドリの群れ等を観察し、小池のそばのアジサイ園や溪流そばの森でエゾビタキ、コサメビタキ、オオルリの若等を観察した。その後熱中症を避けるため大池の周りの木々の中を通り、大池の東側の休憩所を過ぎた所で、池の中の島の先端にカワセミ♂がいるのを発見し、皆さん大いに楽しんだ。

○平日 大阪公立大学附属植物園 <9/17>

青空は出ていましたが、残念ながらタカの渡りのタカは見られませんでした。その他の野鳥も殆ど姿がなく、公大植物園のこんな姿は初めての事でした。餌になる木の実が猛暑で少なかったのかもしれない。

○淀川河口 矢倉緑地 <9/20>

あおぞら財団(公益財団法人公害地域再生センター)主催の探鳥会と合同で行われた「淀川河口・矢倉緑地探鳥会」に、今回初めて参加しました。合同開催は今年度2回目だそうです。

当日は、あおぞら財団の方から干潟の歴史などについても教えていただき、いつもの探鳥会とはまた違った学びがあり、とても有意義な時間となりました。

観察ではイソシギやミサゴなど、全部で21種類の野鳥に出会うことができました。なかでも個人的に印象に残ったのは、24cmと33cmという大きさにまつわるお話です。24cmはムクドリ、33cmはキジバトの目安で、野鳥の大きさをはかる「ものさし」として使われているとのことでした。これまで鳥を見るのに夢中で、体の大きさまで気にする余裕はありませんでしたが、探鳥会に参加することで、少しずつ新しい視点が増えていくのを実感しました。

一方で、野鳥がどこにいるのか、どこにいそうかという勘どころはまだまだ身につかず、教えていただいてもなかなか見つけられないことが多いです。最後の鳥合わせで「自分には見られなかった鳥がこんなにいたんだ」と思うのも、毎回の楽しみのひとつになっています。

今回の経験をきっかけに、これからも自然観察を続けながら、自然を大切にする気持ちを育んでいきたいと思います。次回の探鳥会も今から楽しみにしています。ありがとうございました！

むくどり会員 山形さん

○バーディ 大阪南港野鳥園 <9/23>

9月23日に大阪南港野鳥園のバーディ探鳥会に参加した。

今日は車で来たので、駅ではなく、野鳥園でみなさんが来るのをまっていた。

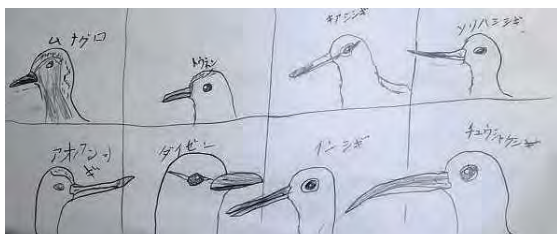
ついた頃は、カワウ、サギ類、イソシギ、キアシシギ、ミサゴ、ウミネコや、自分ではかくにんしていないが、センダイムシクイ、オオルリがいたそう。

参加したのは野鳥園の中しんに位置するてんぼうとうで、入ったバーダーのかたが、アオアシシギ、トウネン、ソリハシシギを見つけていた。北かんさつ場は、すぐてまえにチュウシャクシギがいた。うれしくカニをとらえている写真をとることができた。

数分後、父がエゾビタキをみつけた。近くで、キジバトがどんぐりみたいな種をついばんでいた。この日見れたのは31しゅるい、そのうち30しゅは探鳥会のあいだに見、おわってからダイゼン冬羽2羽がいた。

もう一回北かんさつ場にいき、さつえいしました。いつも通っているの、見つけやすく楽しかったなと思います。カワセミも見た。

勝木敬都さん(小3)



勝木敬都さんのスケッチ

○U50 石清水八幡宮 <9/28>

朝から雲が優勢ながらも、時折青空が広がる、タカの渡りには絶好の観察日和となった。

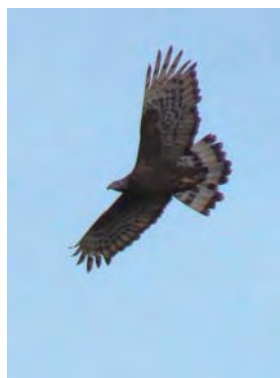
さらに前日に、信州の方でかなりの数のタカが渡ったとの情報もあり、期待が膨らむ。

そんな中、男山展望台に上がるまでの道中では、早くもエナガやメジロ、コゲラなどの混群が見られた。その中で聞き慣れない地鳴きがし、姿では判断できなかったものの、鳴き声と時季からメボソムシクイと判断した。

展望台到着、早々はパラパラと渡ってくるタカを探していたが、中には至近距離を帆翔するハチクマもあり、その姿をしっかりと観察できた。

昼前には団体でやってくるサシバが増え、肉眼でタカ柱や、頭上を流れるタカたちを見ることもできた。

参加者の中には、タカの渡りは初めてと言う方もおられ、見応えのある渡りを堪能してもらえたかと思う。開催者側も昨年はハチクマ1羽だけと散々だったので、今回は沢山渡ってくれて大変喜ばしかった。



ハチクマ



サシバのタカ柱

○羽根鑑定大会2025 <9/5~9/7>

9/5~7に開催した恒例の「羽根鑑定大会」は、今年も盛況のうちに終了しました。参加者は3日間で計55名、うち13名の方が鑑定する羽根をご持参されました。

2020年に初めて開催して以降、羽根ファンがしだいに増えて(?)、鑑定内容も年々難しくなってきました。今年もたくさんの難題が持ち込まれ、3人の知恵と経験を結集して取り組み、時間をかけて持ち主が判明すると歓声と拍手がおこってホッと一息、ただ小さな体羽など不明なものも多数あり、鑑定人3人の勉強は今後もつづきます。

また今回は、会場が一階の交流室に急きょ変更になりましたが、外から中の様子が見えたり、入りやすい場所ということもあり、何をしているんだろうとフラッと立寄る方も多くおられました。NEXT21のお祭りとも同日だったので、住民の方とも交流することができ、来年もこの場所で開催できるとよいと思います。ご協力いただいた皆様、どうもありがとうございました。

(寺川裕子)



大阪の野鳥 pri. ～個体数の変化（陸鳥編）

○大阪で「多い陸鳥」、不動産のNo.1はスズメ

前回の水鳥編に続き、こんどは陸鳥編です。こちらは、前々回の確認地点数ランキングとの対比もあるので、見どころが多くなります。

まずは繁殖期、越冬期とも、全年代を通じて堂々の1位を堅持したのは、誰しものが馴染み深い、かのスズメです！いやあ、大したものです。ころころと移ろう2位以下の種に、ほとんどの年代・時期でダブルスコア以上の差をつけています。大阪の野鳥プロジェクトの首席を飾るのに、異論のある人は少ないでしょう。

ただし3期ともなると、その覇権にかげりが差し始めています。越冬期2位のヒヨドリが、いい線まで追いつけていることもあります。スズメの個体数自体が、半減レベルで減少してきているのです。繁殖期は年代を下るごとに、また越冬期には2期に一度増えながらも、3期は1期を大きく下回っています。

「スズメが減っている」とは、ここしばらく耳にすることの多いワードですが、それを追認する調査結果が、大阪でも示された形です。ちなみに、前々回に掲載した「確認地点数」ではどうか、と見返しますと、確認地点数でも1位だった1期の繁殖期には41地点中33地点で出現、以降も並び順こそ下がるものの、繁殖期には2期に37地点、3期には34地点。越冬期は29～33地点と、顕著に減っているようには見えません。

つまり、スズメの生息地がなくなったというより、生息しているそれぞれの地点で個体数が減っている状況が、確かにあるようです。スズメの生活を思い返せば、よく巣を架けていた瓦屋根とか、群れで採餌していた小規模の農耕地や空き地が、身の回りで見られなくなってきた実感はあります。電柱の腕金のような狭いスペースでの営巣や、コンビニの食べこぼし程度の餌量では、個体数の維持は難しいのかもしれませんが、人間の集落に同伴して繁栄してきたスズメですが、次回このような調査をした時にも個体数1位でいるのかどうか、少し心配です。

○減っている鳥の共通点

1位のスズメがそんな調子ですから、2位以下も気になるところです。確かに、スズメとおおよそ時を同じくして減少している鳥がいます。繁殖期ではキジバト、ホオジロ、ヒバリ、セッカ、越冬期にもキジバト、ホオジロ、そして冬鳥のカシラダカ、ツグミが、減少の一途です。これらの鳥の共通点は、いずれも耕作地や草地をはじめとするオープンランドに多い鳥です（キジバトはやや微妙？）。この点は2期の「大阪の野鳥 vol. 6」の時点で指摘されていましたが、一時的な減少にはとどまらず、いっそう深刻化しているようです。

このうち確認地点数でもランクインするのはキジバト、ヒバリ、ホオジロ、カシラダカ、ツグミの5種ですが、キジバトを除き（この点でも微妙）、確認地点数でも減少しています。

○では、増えた鳥は？

オープンランドの鳥に代わって上位に食い込んできたのはメジロと、シジュウカラ（繁殖期；ドバトを除くと10位）といった樹林性の鳥です（野鳥扱いでないドバトは、2期までは調査対象外でした）。先んじて都市鳥化したヒヨドリも樹林性ですし、樹林性が強いハシブトガラスも、傾向の読めない増減をするハシボソガラスと対称に、右肩上がりに増えています。

意外なのは藪を好むウグイス、そして草地にも多いカワラヒワの増加傾向です。ウグイスは繁殖期のみのランクインですが、山の営巣地ではシカによる下層植生の食害や、外来種ソウシチョウとの競合などのネガティブ要因が知られています。それでも河川敷に繁殖分布を広げるなどのしたたかな対応が、増加に結び付いたのでしょう。確認地点数も16→20→30地点と倍増しています。カワラヒワは小高い樹上に営巣するため、スズメほど馴染みはないかもしれませんが、古くから人里近くの普通種に名を連ねています。あるいは営巣環境まで人工物に依存しない、程よい距離間が、スズメと明暗を分けたのかもしれませんが。(N.K.)

表1 「調査で記録された数が多かった鳥」…個体数 上位10種の推移（その2：陸鳥編）

繁殖期			越冬期		
1期(1976～1977)	2期(1992～1993)	3期(2018～2024)	1期(1976～1977)	2期(1992～1993)	3期(2018～2024)
1位スズメ(1891)	1位スズメ(1411)	1位スズメ(1055)	1位スズメ(2240)	1位スズメ(3295)	1位スズメ(1220)
2位ツバメ(362)	2位ムクドリ(770)	2位ムクドリ(470)	2位ホオジロ(711)	2位ムクドリ(1134)	2位ヒヨドリ(1033)
3位ヒヨドリ(296)	3位ツバメ(526)	3位ツバメ(376)	3位ツグミ(577)	3位カワラヒワ(605)	3位カワラヒワ(770)
4位キジバト(198)	4位ヒヨドリ(456)	4位ドバト(357)	4位ヒヨドリ(526)	4位ヒヨドリ(584)	4位ドバト(655)
5位ホオジロ(171)	5位カワラヒワ(211)	5位ヒヨドリ(345)	カシラダカ(526)	5位ツグミ(364)	5位ムクドリ(629)
6位ヒバリ(119)	6位キジバト(152)	6位メジロ(341)	6位カワラヒワ(505)	6位ホオジロ(334)	6位メジロ(617)
7位ハシボソガラス(87)	7位ウグイス(121)	7位カワラヒワ(225)	7位ムクドリ(434)	7位キジバト(267)	7位アオジ(343)
8位カワラヒワ(73)	8位エナガ(114)	8位ウグイス(207)	8位キジバト(425)	8位アオジ(237)	8位ハシボソガラス(321)
9位セッカ(70)	9位シジュウカラ(113)	9位ハシボソガラス(198)	9位アオジ(339)	9位メジロ(233)	9位ツグミ(298)
10位オオヨシキリ(68)	10位ホオジロ(113)	10位ハシボソガラス(151)	10位ハシボソガラス(229)	10位エナガ(219)	10位ハシボソガラス(193)

↓ 在りし日の元ランカーたちは、今？ / 今どきのランカーたちは、その頃？ 10位以下からピックアップ。

1期(1976～1977)	2期(1992～1993)	3期(2018～2024)	1期(1976～1977)	2期(1992～1993)	3期(2018～2024)
11位ウグイス(66)	11位メジロ(110)	11位シジュウカラ(147)	13位エナガ(200)	11位ハシボソガラス(191)	12位エナガ(180)
12位エナガ(61)	12位ハシボソガラス(109)	12位エナガ(136)	14位メジロ(188)	12位ハシボソガラス(161)	13位キジバト(178)
13位ムクドリ(57)	13位ヒバリ(78)	14位キジバト(112)	27位ハシボソガラス(40)	14位カシラダカ(131)	16位ホオジロ(156)
14位ハシボソガラス(53)	14位オオヨシキリ(77)	15位オオヨシキリ(109)	(ドバトが調査対象外)		20位カシラダカ(12)
17位シジュウカラ(30)	17位セッカ(45)	18位ホオジロ(83)			
27位メジロ(9)	22位ハシボソガラス(30)	28位ヒバリ(29)			
(ドバトが調査対象外)		35位セッカ(19)			

※()内の数字は個体数

※()内の数字は個体数

鳥信 こんな鳥観たよ!!

■2025 年 7 月～10 月（日本鳥類目録改訂第 8 版分類順）

鳥信は大阪支部ホームページから簡単に投稿できます。観察年月日、地名（市と町名など）、個体数、性別など分かる範囲で記入してください。※特に珍しい鳥の場合は写真があれば添付してください。誌面に限りがあるため、いただいた鳥信すべては掲載できませんのでご了承ください。いただいた記録は次期目録作成時の基礎データとして活用いたします。

鳥の種類	観察日	観察場所	個体数等	観察状況	観察者名・報告者名	繁殖	写真
ヒドリガモ	9月27日	守口市佐太地区淀川	♀1羽	中州の水際に、カガモなどといました。	後藤悦子		
キジ	8月9日	豊能郡豊能町	1羽	夕方、田んぼの稲の穂を食べているように見えた。	村上伊久子	◆	
アオバト	9月30日	箕面市	1羽	林道脇のクマノミズキの木で採餌していた。	鍋本光子		
ヒクイナ	9月7日	堺市南区小田之池近くの田	1羽	早朝、田んぼから道路のガードレールに飛び乗り、すぐに田んぼに戻った。その後、田の間を餌を探るように歩いていた。	小林千賀子	◆	
セイタカシギ	8月10日	大阪南港野鳥園	1羽	セイタカシギの足の長さを再認識した。	浜口洋文		
ケリ	10月1日	和泉市北田中町 横尾川	2羽うち1幼鳥	流れのゆるい川の中にいた。	納家 仁	◆	
メダイチドリ	10月6日	男里川	数羽	大潮の干潟で餌を探していました。	山田典克	◆	
ホウロクシギ	9月14日	大津川河口	幼鳥1羽	翌15日にも確認されている。	納家 仁	◆	
キョウジョシギ	9月14日	岸和田野木場	成鳥1羽	材木の上にいた。	納家 仁	◆	
キョウジョシギ	10月6日	男里川河口	幼鳥1羽	大潮の干潟で餌を探していた。	山田典克	◆	
タシギ	8月18日	守口市金田町3丁目	1羽	いつもケリの集団のいる田んぼに、1羽違う鳥がいるのを発見。こちらでは、初観察。	後藤悦子	◆	
キアシシギ	9月27日	泉大津市小津島町	幼鳥1羽	両足につり糸が絡まった個体。飞翔は可能で、保護捕獲を試みるも失敗。	納家 仁	◆	
アカアシシギ	9月24日	岸和田野木場	1羽	材木の上にいた。当地では初めて確認。	納家 仁		
ヨシゴイ	10月2日	長居公園	1羽	池にいた人が近づいたため、飛び出し、木の枝に留まり暫く休んでいた。	中口江美	◆	
オオヨシゴイ	10月7日	大阪市淀川毛馬地区	1羽♀タイプ	朝7時頃、ヨシゴイらしき鳥が上流から水路向こうの草地に飛んできた。草の中を見え隠れしながら移動していき、その後水路手前の草地に入り込んだ。探しても見つからず、総観察時間は10分程度。帰宅後に画像を見てオオヨシゴイと判断した。 ※大阪府では、2018年10月の淀川（高槻市）で♂1羽が確認されて以来の記録	佐藤敏夫	◆	
ササゴイ	10月3日	長居公園	1羽	池の鳥から飛び出し、対岸に降りた。冠羽が美しかった。	中口江美		
アマサギ	7月10日	堺市南区稲葉田園地帯	4羽	早朝、田んぼの中で採餌していた。	小林千賀子		

■夢洲(大阪関西万博・大屋根リング周辺)での観察記録 調査立入ができない中、貴重な情報

- ・6月22日：セイタカシギ6 ・7月27日：セイタカシギ数羽、ケリ2
・7月31日：セイタカシギ親2、ヒナ？1 ・8月2日：セイタカシギ8、ヒナは確認できず
・8月18日：セイタカシギ2、アオサギ、ダイサギ、カルガモ10+、シロチドリ？ヒナ2
・9月4日：オオソリハシシギ2、コシアカツバメ、ツバメに突っ込むハヤブサ1確認
（以上 野村浩作）

・8月11日 セイタカシギ5羽、他にカルガモ、ソリハシシギ、トウネン、ツバメ、コシアカツバメを確認。この夏は、ユスリカ目当てか、大屋根リング上空をたくさんのツバメが乱舞するのが見られた。 右写真：水辺に群れるセイタカシギ（梅野佳美）
※博覧会協会による調査で2025年もセイタカシギの営巣が確認されている。環境の悪化にもかかわらず繁殖を続けているということは繁殖地としての夢洲の重要性を示唆するものである。



◎ワライカモメ *Leucophaeus atricilla* カモメ科 大阪府初記録 梅垣佑介

2025 年 9 月 23 日 大和川(堺市堺区・大阪市住之江区間) 成鳥 冬羽 1羽

13:22 に阪堺大橋上流側中州のウミネコ 400±群中にて発見。

14:13 に飛び去るまで水浴びと中州で休息しているところを観察した。

風切を換羽中で、両翼とも外側初列風切2枚が旧羽。



左 ワライカモメ 周辺の鳥はウミネコ

※ワライカモメは、アメリカ南部から中米のメキシコ、ベネズエラにかけて繁殖し、ブラジル、チリなどで越冬するカモメで、日本では夏期に、まれに単独で記録されることがある。夏羽では頭が黒くなる。大阪では初記録。この日以降確認されず。



鳥の種類	観察日	観察場所	個体数等	観察状況	観察者名・報告者名	繁殖	写真
ミサゴ	9月28日	大阪南港野鳥園	1羽	大きなシマイサキを見せびらかすようにした後に捕食。	迫田昌宏		
ミサゴ	10月8日	貝塚市麻生中	3羽	自宅2階窓から観察。16時40分頃、曇天の強風が吹く上空高くをトビ位の大きさの猛禽3羽のうち1羽が、「キョキョキョキョ」と大声で鳴きながら旋回。	松田史郎		
アカハラダカ	9月19日	枚方市国見山山頂	1羽	前日まで長崎県の鳥帽子岳で数百羽のアカハラダカを見てきた大畠弘司さん（会員外）が、19日、朝8時7分頃に国見山の西の空を飛ぶ姿を写真に撮られ、枚方野鳥の会に報告いただいた。枚方市初記録。	観察者：大畠弘司さん（会員外） 報告者：松下孝雄		◆
サシバ	9月27日	枚方市国見山山頂	1羽暗色型	枚方野鳥の会のメンバー数人でタカ渡りを観察中に確認。枚方では1989年10月1日の山田池で202羽のサシバが確認されその中に1羽の暗色型の記録があり、今回は2回目。	松下孝雄		◆
アカショウビン	8月13日	和泉葛城山山頂	1羽	早朝、ブナ林の方から鳴声が数回聞こえた。付近を探索するも発見できず。	納家 仁他		
アカショウビン	8月31日	服部緑地	1羽	友人から連絡を受けて観察。当日朝から観察されていたそうだが木々の後ろでじっとしていた。午後3時前に飛び立ち行方不明に。翌日は見られず。	藤塚謙二		◆
サンショウクイ	7月30日	エキスポ'90みのお記念の森	1羽	早朝の6時、近くの樹木にとまっていた。あとで4羽でいるサンショウクイも見た。	浜口洋文		
サンコウチョウ	8月29日	長居公園	1羽	虫を追ってロープに降り立つ。	中口江美		
サンコウチョウ	10月1日	大阪城公園	2羽	飛驒の森でしばしば近寄りながら探餌する若鳥（嘴やアイリングから今夏に育った若鳥と判断）2個体を確認。	迫田昌宏		
チゴモズ	8月19日	大阪城公園	1羽幼鳥	警戒心が強く、林内でじっとしている。8月18日から確認。	迫田昌宏		◆
チゴモズ	8月22日	大阪城公園	1羽幼鳥		浜口洋文		◆
ハシブトガラス	7月26日	和泉市久井町	1羽バフ変個体	口の中が赤いので今年生まれと思われる。単独で行動していた。	藤原 司		◆
ヒガラ	7月5日	エキスポ'90みのお記念の森	1羽		浜口洋文		
ヤマガラ	8月30日	エキスポ'90みのお記念の森	1羽	1羽で水浴びしていた。	宮田幸司		◆
コガラ	8月24日	豊能町吉川	1羽	沢の周辺で探餌していた。当地で8月に観察できたのは初めて。	熊谷 隆		◆
シジュウカラ	7月22日	大泉緑地	15羽+	アブラゼミを捕食する若鳥を確認。	迫田昌宏		
ヒヨドリ	8月27日	枚方市	4羽（親鳥1、幼鳥3）	巣立った幼鳥に種といっしょに柿の実を与えるところを確認。	迫田昌宏		◆
ツバメ	8月12日	茨木市元茨木川緑地	複数羽	今年、生まれたツバメだと思われる。複数羽が電線に止まっていた。	宮田幸司		
イワツバメ	8月9日	東大阪市下六万寺町	1羽	養魚池周辺をコシアカツバメの大群に混じって飛んでいた	森口葉子		
コシアカツバメ	7月22日	堺市西区	4羽	お昼過ぎ、自宅前の電線に止まっていた。	小林千賀子		
コシアカツバメ	8月9日	東大阪市下六万寺町	30羽+	養魚池周辺を30羽以上の群れが飛んでいた。	森口葉子		
コシアカツバメ	8月23日	大阪府箕面市	2羽	箕面駅から滝道へと向かう途中の土産物屋さん付近、電線に止まっていた。	多賀井正宏		
コシアカツバメ	10月16日	和泉市北田中町	62羽	朝9時頃、自宅前の電線に止まっていた。	納家 仁		
エナガ	9月15日	金剛山ちはや園地・展望台	1羽	シジュウカラは成鳥と幼鳥、エナガ、ヒガラ、コゲラは各1羽の混群に遭遇。	井上和治		
エゾムシクイ	8月27日	枚方市	1羽	樹上性のコオロギ（嘴に後脚が付着）を捕食した個体を確認。	迫田昌宏		
メジロ	7月13日	エキスポ'90みのお記念の森	5羽	順番に水浴びしていた。	宮田幸司		◆
キバシリ	7月13日	箕面公園	2羽	定例探鳥会で参加者全員が観察。	中塚忠嗣		
キバシリ	8月17日	豊能町吉川	1羽	ヒノキ林で探餌していた。	熊谷 隆		
コムクドリ	7月24日	堺市南区稲葉和田川	1羽♂	早朝、ムクドリの群れに1羽混じって電線に止まっていた。川沿いのアカメガシワの実を啄みに来ていたと思われる。	小林千賀子		
コムクドリ	9月18日	長居公園	6羽♂	群れで飛んできて、枝から枝へと暫く実を食べ飛び去った。	中口江美		
クロツグミ	10月9日	大阪城公園	2羽	飛驒の森でヒヨドリに追われて、高木樹幹部を飛び回る雌雄を確認。	迫田昌宏		
マミチャジナイ	10月2日	鶴見緑地	3羽	ツィーと鳴きながら高木の樹冠部を飛び回る個体を確認（今秋初飛来とのこと）。	迫田昌宏		
マミチャジナイ	10月9日	大阪城公園	2羽	飛驒の森で探餌する若鳥と思われる個体（腹部の色が薄いことで若鳥と検討）を確認。他にクロツグミ雌雄を確認。	迫田昌宏		
マミチャジナイ	10月10日	長居植物園	4羽	10月3日に1個体のみの確認、10日は高木樹幹部を探餌しながら飛び回る数個体を確認。	迫田昌宏		
コサメビタキ	8月31日	長居公園	1羽	虫を追いかけ、枝から枝へと飛び交っていた	中口江美		◆
コルリ	8月21日	長居公園	1羽♂	アジサイの下を尾羽を振りながら虫を食べていた。	中口江美		
コルリ	8月17日	豊能町吉川	1羽♂幼鳥	沢に水浴びに来た。	熊谷 隆		◆
キビタキ	8月24日	豊能町青貝山	1羽幼鳥	近くにキビタキ成鳥♂がいた。巣立ち数週間程度の幼鳥に見える。	熊谷 隆		
インヒヨドリ	8月21日	長居公園	1羽	木の下で虫を探っていたが、枝に飛び上がり、暫くじっとしていた。	中口江美		
ノビタキ	9月23日	枚方市 淀川	♀2羽	淀川沿いに生えている低木の枝先に止まっていた。	多賀井正宏		
ノビタキ	9月27日	阪南市男里川	1羽	定例探鳥会の鳥合せ後、屋尾崎駅に移動しようとしたところ浜辺の草地に1羽飛来。	石川由美子		
ノビタキ	9月28日	大阪南港野鳥園	2羽	観察塔前の草地を左から右に飛びながら探餌する個体を確認（今秋の初確認とのこと）。	迫田昌宏		
スズメ	10月2日	大泉緑地	10数羽	ふれあいの庭のスイレンを育てる水が流れる場所で、水浴び。	井上和治		◆

◎センダイムシクイ 7月 19 日 大泉緑地 2～3 羽幼鳥 迫田昌宏



低木林の中を飛び回り、探餌する幼鳥を確認した。

※7月中旬の幼鳥の観察ということで、大泉緑地内で繁殖した可能性も考えられる貴重な記録。会員の方で大泉緑地での繁殖につながる観察情報（営巣、餌運び、巣立ち雛への給餌など）をお持ちの方は大阪支部までお知らせください。

※鳥信は表形式での掲載とします。スペース等の関係で観察状況については、いただいた内容を簡略（又は削除）して掲載しています。鳥信のフォームで記録を投稿される際には、観察状況の項目に、何時頃にどのような行動を観察したかなどをできるだけ簡潔に記載してくださいるようにお願いします。普通種の記録（変わった行動を見たとか、繁殖につながる情報の観察など）の投稿も歓迎します。写真がなくても構いません。なお、特筆すべき観察記録については囲み記事として掲載します。



キジメ 豊能町 (村上伊久子)



ヒクイナ 堺市南区 (小林千賀子)



ケリ 手前幼鳥 和泉市槇尾川 (納家 仁)



メダイチドリ幼鳥 男里川 (山田典克)



ホウロクシギ幼鳥 大津川河口 (納家 仁)

鳥 信 投稿写真 2025.7 ~2025.10



キョウジョシギ 岸和田貯木場 (納家 仁)



キョウジョシギ幼鳥 男里川 (山田典克)



タシギ 守口市金田町 (後藤悦子)



キアシシギ幼鳥 両足に釣り糸
泉大津市 (納家 仁)



ヨシゴイ 長居公園
(中口江美)



オオヨシゴイ♀タイプ 大阪市淀川毛馬地区 (佐藤敏夫)

野鳥ファースト5つの誓い・・・●鳥との距離に十分注意 ●野鳥(珍鳥や繁殖)の情報はむやみに人に伝えない ●遠慮せず、マナー違反は注意しよう ●鳥だけでなく、周囲の人や環境にも配慮しよう ●「野鳥ファースト」を合言葉に、野鳥撮影や観察マナーの向上を訴えよう
※投稿いただいた写真は、編集・レイアウトの関係で必要に応じ、鳥を中心にトリミングしています。



上 アカハラダカ 枚方市国見山 (大島弘司)
右 サシバ暗色型 同所 (松下孝雄)

アカショウビン 服部緑地 (藤塚譲二)



チゴモズ幼鳥 大阪城公園 (浜口洋文)



チゴモズ幼鳥 大阪城公園 (迫田昌宏)

ハシブトガラス バフ変個体
和泉市 (藤原 司)



コガラ 豊能町吉川 (熊谷 隆)



ヤマガラ水浴び 箕面市 (宮田幸司)



メジロ水浴び 箕面市 (宮田幸司)

ヒヨドリ親子 枚方市 (迫田昌宏)



コルリみ幼鳥 豊能町吉川
(熊谷 隆)

コサメビタキ 長居公園 (中口江美)



スズメ水浴び 大泉緑地 (井上和治)

◇ 幹事会報告（8月・9月・10月）◇

◆8月幹事会 オンライン併用（8月5日 出席幹事11名）

報告事項（主なもの）：

- ・近畿ブロック会議報告 ・岩谷産業広報誌記事監修 等

◆9月幹事会 オンライン併用（9月2日 出席幹事12名）

審議事項（主なもの）：

- ・大阪湾NP(ネイチャーポジティブ)国際シンポの予算について
- ・探鳥会用の簾の製作について 2025年度中に発注
- ・寄付付き商品企画について 2026年5月を目途に計画

◆10月幹事会 オンライン併用（10月7日 出席幹事13名）

報告事項（主なもの）：

- ・連携団体総会（11/9）での発表(国際シンポ)と参加者確認
- ・探鳥会リーダーズフォーラム報告（久下幹事）
- ・大阪湾NP国際シンポと大阪市への表敬訪問について

新入会員の状況（7/2～10/1）

新しいなかま 正会員 16 名 むくどり会員 5 名

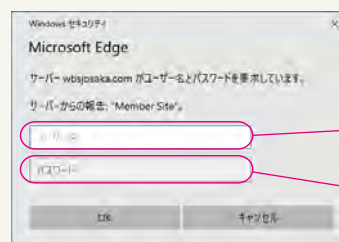
納涼野鳥まつり写真発表寄付 10,550円

納涼野鳥まつりその他寄付 2,264円

個人寄付 1,000 円お二人 ありがとうございます。

■会員専用ホームページについて

- 1 会員専用ページには、野鳥図鑑、むくどり通信全ページ PDF、塩田猛さんの野鳥講座、寺川さんの野鳥羽根図鑑、野鳥動画集、野鳥ボーカル集などが掲載されています。
- 2 会員専用ページを閲覧するためには「ユーザー名」と「パスワード」が必要となります。
- 3 「ユーザー名」と「パスワード」は「むくどり通信」に掲載し、「むくどり通信」の発行の時期に合わせて定期的に変更します。
- 4 会員専用ページにアクセスすると下記のような画面が出てきますので、「ユーザー名」と「パスワード」を入力すると目的のページが閲覧できます。



今回のユーザー名とパスワードは次の通りです。

ユーザー名: **atori**

パスワード: **fringilla**

◆野鳥動画集に掲載する動画を募集しています。

詳細はホームページをご覧ください。

■ NEXT21 納涼野鳥まつり 報告 2025年8月31日 参加者50名

第1部 14:00～ 特別講演 南西諸島の島々の鳥や生き物たちの進化

西表島、沖縄本島やんばる、奄美大島をフィールドに自作のロボットカメラで野生生物の生態を追い続ける鈴木直樹さんから、イリオモテヤマネコやカンムリワシ、リュウキュウアカショウビンなどの生態をとらえた秘蔵画像を見せていただきました。又、「時間軸消去法」=ロボットカメラが捉えた生き物を一枚の絵の中にまとめて見せる手法に参加者の皆さんの関心が集まりました。

第2部 15:30～ とっておきの写真大発表会

13 名から 211 点の写真の応募がありました。※応募写真は支部のホームページで公開しています。ぜひご覧ください。

第3部 17:15～ 納涼会 参加者 34 名 講師の鈴木直樹さんも参加され、皆さんとの交流を深めることができました。今回の納涼野鳥まつりは、講演会、納涼会ともに過去最多の参加者となり大盛況でした。お菓子や飲み物などの差し入れをいただいた皆さん、ご協賛のかもめコーヒーの岡林さん、猛暑の中、参加された皆さまありがとうございました。



講師の鈴木直樹さん（中央）を囲んで

■ 2025 年度 探鳥会リーダーズフォーラム 参加報告 久下直哉（支部幹事・企画 G 担当）

開催日10月4日（土）、5日（日） 財団本部主催 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加支部：宮城1、栃木1、東京2、奥多摩1、石川1、沼津1、南富士4、愛知1、三重1、滋賀1、京都1、大阪1、兵庫2、鳥取2 計20名

10月4日：分科会「新たなリスクに備えて探鳥会のハラスメントを防止しよう」

本部から探鳥会でのハラスメント 4 事例（以下）が紹介された。

- ① 探鳥会に参加したカメラマンへの注意喚起のリーダーの言葉遣い
 - ② 若いリーダー（男性）の参加者（女性）への付きまとい
 - ③ 参加者70代男性が探鳥会中に参加者への「見た鳥の自慢」行為
 - ④ 親子の参加者に対し、必要以上に鳥の話をする行為
- 又、初心者に参加者に対し自己紹介を求めたり、感想についての発言を求める行為なども参加者によってはハラスメントと受け止められる可能性が大きいこと。個人に指名するのではなく、参加者全体に呼びかける程度に止めることが必要で、強要は NG。ハラスメントの傾向としては、男女間のハラスメントが多い。親切心が行き過ぎたためにハラスメントと受け止められる場合がある。一方で参加者からリーダーへの「カスハラ」案件もある。ハラスメントが会にとっての新たなリスクであることを改めて認識した。今後、財団本部では、「ハラスメント事例のアンケート」を各支部に依頼し事例を集める予定。事例をまとめながら解決策を模索しリーダーマニュアルに盛り込む予定。

10月5日：分科会「初心者バードウォッチングがもたらす効果とは」に参加

【他支部の取り組みなど】初心者の入会者に継続してバードウォッチングを楽しんでもらうために初心者同士のコミュニケーションが図れるようにライングループ（ラインへは自由参加）を活用。募集人数を限定した初心者探鳥会を増やし、リーダーのマンツーマン案内によって満足度の高い探鳥会を開催。探鳥会運営の際、解説係、安全管理係などの色分け腕章の活用など。

全体会「探鳥会リーダー育成について」：普及室箱田さんから、探鳥会リーダーの減少が深刻化し、各支部共に探鳥会の運営が困難になってきているとの指摘があり、次世代リーダーの育成が急務であることから財団本部では「リーダー育成ワーキングテキスト」を 2025 年 11 月に発行予定との報告があった。

※リーダーズフォーラムの資料については、支部事務所で閲覧できます。

次号 291 号 (2026 年 1 月号) 予告

■特集:「会員投稿特集 こんなん撮りました」

新年号は、会員の皆さんからの投稿写真特集です。テーマは、「こんなん撮りました」。ちょっと人に見せたいような面白い写真、鳥の行動(採餌、水浴び、羽づくろいなど)や面白い表情をとらえたものなど、身近な鳥から珍鳥まで、皆さんの楽しい写真の応募を待っています。ただし営巣写真や小さなヒナの写真などはNGです。

写真をメールで送付いただく際には、種名、撮影者名、撮影年月日を入れたファイル名にしてください(例:ムクドリ 大阪太郎 2023-1-15.jpeg)。又、画像は印刷原稿として適当な 2Mバイトまでの範囲の出来る限り高解像度のものをお送りください。

原稿必切 12 月 2 日 皆さんの投稿お待ちしております!

身近なフィールドでの話題などは「そんぐぼすと」のコーナーへ
投稿用メール: (広報 G) mukudori@wbsjosaka.xsrv.jp

※鳥信は支部 HP の送信フォームから簡単に投稿できます。



鳥ガール/日本野鳥の会大阪
@origirlosaka

<https://x.com/torigirlosaka>

NEXT21 周辺の鳥情報も発信中です

日本野鳥の会大阪支部では、野鳥の観察・保護活動などを通じて自然を守る運動を広げようと、「鳥ガール」によるエックスで情報発信しています。ぜひフォローになってください

■大阪支部事務所の開所曜日と時間について

・毎週火曜日・金曜日 (10 時～ 18 時)※祝祭日は閉所

・電話対応は、毎週火曜日・金曜日 (13 時～ 16 時)

電話: 06-6766-0500

年末 12 月 26 日 (金) まで 年始 1 月 6 日 (火) から

■開所日は、予告なく変更することがありますので、事務所にお越しの際には事前にご連絡ください。

■支部事務所では傷病鳥やヒナ鳥の救護等に関する問い合わせ、珍鳥の生息情報に関する問い合わせには対応いたしませんのであらかじめご了承ください。

■個別の探鳥会に関する問い合わせには対応できません。

■会員制度、入退会に関するお問い合わせ、住所変更の連絡については、公益財団法人日本野鳥の会 総務室 支援者管理グループまでお願いします。

電話: 03-5436-2631 (平日の月・木・金 11 時～ 15 時)

■むくどり会員期間中の住所等変更は大阪支部にご一報ください。



編集後記 Editor's Note

◆暑い暑い夏が終わったと思ったら、急に冷え込みがやって来た。例年に比べて秋の渡り期間に見られた鳥がとて少なかった。渡り鳥ばかりでなく留鳥さえほとんど見られない。レイチェル・カーソンは化学薬品による環境破壊を警告して『沈黙の春』という名著を著したが、「沈黙の秋」の理由は温暖化の進行なのだろうか? (もず)

★探鳥会リーダーズフォーラムで、ハラスメント事例として、鳥知識の自慢や初心者への過度の付きまといなどが紹介されたという。本人の自覚がないことが特徴のようだ。我が振りにも気を付けよう。(つかぼん)

○大阪城公園で鳥見した帰りに、環状線内の柵に上げた、三脚(雲台付)を取り忘れて降りてしまった。もう二度と返ってこないかもと落ち込んだが、車庫内で駅員さんが見つけてくれて、無事忘れ物センターに届けられていたの、手元に返ってきた。この経験から、今の三脚がさらに好きになって、「帰ってきてくれてありがとう」とたまに声をかけるようになった。もう二度とこんなヒヤヒヤするような経験はしたくない。(にっしん)

▶街にモズが帰ってきました。オフコースの「秋の気配」が似合う季節になりました。だが! 渡りの季節は足早、メランコリックになってる場合じゃないぞ。渡り鳥の不思議に目覚めたバーダー4年生は、今日は東へ明日は西へ。夏以上に歩いてまーす。(からす)

◇月刊誌Birderの今月号のテーマは「雀」。探鳥はスズメに始まりスズメに終わる。肝に銘じます。身近すぎて見過ごしがちですが、今回のNEXT21調査ではスズメの行動にも改めて特に目を向けてみました。やっぱりカワイイですね。(ヤンカ)

◎10月7日、夜10時過ぎ、能勢町某所で読売TV「大阪ほんわかテレビ」の人気コーナー「かんぱあちゃんのひと花させ隊!」のロケ収録が終了。忍者の師範試験合格をめざす人を全力サポートする強力助っ人の一人として出演。31日に放送されるので、ご覧になられた方もいるのでは。「なんで野鳥の会やの」という寛平ちゃんの突っ込みあり、まじめに会のPRしたけれど、さて編集でどうなっていることか…。野鳥の会のイメージダウンにならないことだけを祈ってます。(HN)

鳥を通じて自然に親しみ、自然を守る運動を広げよう

自然を守るなかまは全国に約 5 万人。

会員の皆さんが地域の活動を支えています。

鳥を愛し、自然を愛する

なかまをもっと増やそう。

大阪支部のなかま
正会員+むくどり会員

1,772 人

(2025 年 10 月 1 日現在)



日本野鳥の会 大阪支部報 むくどり通信 No.290 (2025.11.1)

日本野鳥の会 大阪支部

〒543-0011 大阪市天王寺区清水谷町 6-16 NEXT21・1F

TEL. 06-6766-0500

開館日時: 毎週火・金: AM10時～PM6時

(ただし祝日は休館)

FAX. 06-6766-0501 (24 時間受付)

e-mail: main@wbsjosaka.xsrv.jp (大阪支部事務所)

mukudori@wbsjosaka.xsrv.jp (広報グループ)

URL: <https://wbsjosaka.com/>

振替 00950-0-90551

編集担当: 納家 仁、塚田順一、森山春樹、布村和彦、小畑久美子、西村 浩、梁恵美子、山岡昌伸、杉野 正

※ 記事、写真、イラスト等の無断転載、複製を禁ず。

ガンカモ調査員 大募集 ～カモ類識別講座（講義と実習）のご案内～

ガンカモ類生息調査は、湿地の保全や鳥獣保護区の設定等に活用するため、ガン・カモ・ハクチョウ類の冬期の生息状況や渡来傾向、保護管理を図るべき生息地等についての基礎資料を得ることを目的として、環境省が主体となって、各都道府県の協力のもとに実施している調査です。環境庁（環境省の前身）の発足前の昭和45年（1970年）から実施されています。

大阪支部では、調査開始から継続的に協力していますが、調査員の高齢化が進んでいること、一人で何か所も調査地を担当し過度な負担となっていることなどへの対応が急務となっています。

2025年度も、2026年1月中旬に調査が行われることとなっています。今回、その調査の前に、新たに調査員となつてくださる方をリクルートするための講座を下記の要領で開催します。

「調査に興味はあるけど、カモのメスの識別は、自信が・・・」という方は、ぜひこの講座を受講してください。

日 時：2025年11月30日（日）9時～16時30分

会 場：【講 義】富田林市市民会館（レインボーホール）

【実 習】栗ヶ池共園+石川河川公園

集 合：9:00 富田林市市民会館 3階 竹の間

近鉄長野線・喜志駅下車 東出口 南へ徒歩7分

解 散：16:30 近鉄長野線・富田林駅

内 容：（講義1）9:00～ ガンカモ調査の意義と実情（中村 進）

（講義2）9:30～ カモ類（とくに雌）の識別（納家 仁）

（実習1）11:00～ ガンカモ調査の実際（栗ヶ池）（上村 賢）

（昼 食）12:30～ 栗ヶ池共園

（移 動）13:30～ 石川河川公園に移動

（実習2）14:00～ ガンカモ調査の実際（石川左岸～右岸）

持ち物：弁当、筆記具、観察用具、防寒具

※ 市民会館には、無料の駐車場があります。ただし、駐車場利用の場合は、解散後に富田林駅から1駅戻る必要があります。



※当講座参加者で希望される方には
むくどり通信 No.251（2018年1月号）
カモ特集号をプレゼントします

定 員：30名（先着順） ※支部ホームページの専用の申込みフォームからお申込みください。

雨天の場合：小雨決行。荒天の場合は、講義2の時間を正午まで延長、実習は中止。

当講座を受講された方で、2026年1月のガンカモ調査に参加してみたいという方には、お近くの調査地を紹介します。ベテランの調査員の調査に同行して、要領をマスターしてもらえるようにサポートします。

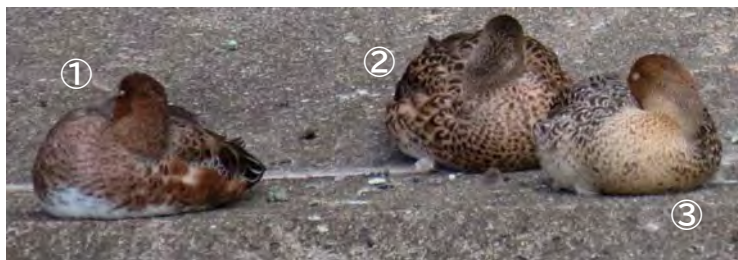
又、カモ類の識別は十分できるという方で、調査に協力していただける方も募集しています。

いずれも、11月末日までにメールで、お名前、希望される調査エリア（市町村名など）をお知らせください。

メール送信先 大阪支部事務所 main@wbsjosaka.xsrv.jp 件名は **ガンカモ調査参加希望** としてください。

カモ類の識別にチャレンジしよう 写真①から⑥の種名、分かるかな？（答えは講座当日に発表します）

ガンカモ調査では種類ごとに何羽いたかを記録します。オスとメスの数をそれぞれ記録する必要はありません。調査時に頭を背に入れて休んでいるカモを見かけることがよくあります。顔やくちばし、足などが見えなくても、見える範囲の羽衣の特徴などから識別できるようになりたいものです。特徴のはっきりしたオスとは違い、メス（又は、オスのエクリップス）の場合は識別に悩まれる方が多いと思います。ぜひ、講座を受講して識別力を向上させましょう。



【ヒント】
写真の①から
⑥のカモは全
て種類が異な
ります



<https://wbsjosaka.com/>

探鳥会の開催等に関して、支部のホームページで新しい情報を発信しますので
ご確認ください。

野鳥 大阪

検索

定例探鳥会のご案内(2025年11月～2026年1月)

探鳥地により、事前申込み／自由参加、定員あり／定員なしが異なりますので、ご注意ください。

- ①トイレ**注意マーク**のある探鳥地は、探鳥会終了時刻までトイレはありませんのでご注意ください。
- ②登山靴マークは探鳥地に急傾斜の登り坂があることを示しています。
- ③定例探鳥会の終了時刻は、鳥の出方により前後しますので、目安としてください。

とくに、終了時刻が12:00となっている探鳥会に遠方よりご参加の方は、念のため弁当をご持参ください。

・持ち物: マスク(＊)・弁当(＊＊)・水筒・雨具・帽子・タオル・名札・観察用具・図鑑など。

(＊)基礎疾患のある方、公共交通機関で参加される方などは、マスクを着用することが厚生労働省より推奨されています。必要に応じて着用ください。

(＊＊)行事の解散時刻等により、弁当が不要場合があります。各行事の注意事項をご確認ください。

・参加費: 会員(むくどり会員を含む・大学生) 100円、一般 300円。高校生以下は無料(傷害保険求償のため、名簿の記入が必要)。

・万一事故が発生した場合、傷害保険に加入している場合は、応急処置以外の責任は負いかねますのでご了承ください。

※ 事前申込み・定員設定の探鳥会は、これまでどおり大阪支部ホームページからお申込みください。ホームページからの申込みが難しい場合は、担当者への電話またはショートメールでお申込みください。定例探鳥会は、概ね4週間前から受付を開始します。
※ 自由参加の探鳥会は、集合時刻に集合場所においでください。

	開催日	探鳥地	開始～終了	集合場所	担当ボランティア
第一土曜	11月1日 12月6日 1月17日	緑の文化園 自由参加、定員なし	9:50～14:00 ＊雨天中止	JR学研都市線 四条畷駅東口午前9時 または緑の文化園 森の宝島駐車場	幅 良三、日比野、清水(邦)、荒木 連絡先: 090-2112-3274
	11月2日 12月7日 1月4日	鉢ヶ峯 事前申込み、定員30名 枚方淀川 事前申込み、定員30名	8:45～14:00 ＊雨天中止 9:00～12:00 ＊雨天中止	南海泉北線 泉ヶ丘駅南側 畑・鉢ヶ峯線(2番)バスのりば 京阪枚方市駅 ラポールひらかた前 ※解散は、御殿山駅	清水俊雄、横島、常石、塚田、谷越、入江 連絡先: 072-299-2318 平 軍二、前田、甲田、西脇、香月、松井、新名 連絡先: 090-6901-1425
第二土曜	11月8日 12月13日 1月10日	万博公園 事前申込み、定員30名 服部緑地 事前申込み、定員30名 枚岡公園 自由参加、定員なし	9:30～15:00 ＊雨天中止 9:00～12:00 ＊雨天中止 9:10～15:00 ＊雨天中止	現地 自然文化園入口 太陽の塔前 (大阪モノレール万博記念公園駅下車) (参加費の他に公園入場料260円) 北大阪急行 緑地公園駅 西出口改札前 近鉄奈良線 枚岡駅下車 枚岡神社鳥居前	平 軍二、田中(宏)、中筋、橋本(昌)、大矢、玉置 連絡先: 090-6901-1425 熊代直生、江津、幅、藤原(美)、吉田(美)、石津 連絡先: 090-9709-2979 福寄隆司、谷村、梶原、浅尾、中島、室谷、西本、浅沼、橋本(俊)、嶋 連絡先: 090-3034-2588
	11月9日 12月14日 1月11日	大泉緑地 事前申込み、定員40名 箕面公園 事前申込み、定員15名	9:30～14:00 8:30～15:00 ＊雨天中止	現地 花と緑の相談所前 (大阪メトロ御堂筋線新金岡駅下車、東へ徒歩15分) 阪急 箕面駅前	岩井 智、若林、藤村、山田、奥田、吉田(一)、杉本、川相、釣田 連絡先: 090-4291-7711 佐藤雅史、中塚(忠)、中塚(美)、東森、松村、池淵 連絡先: 072-724-7054
	11月15日 12月20日 1月17日	鶴見緑地 自由参加、定員なし	9:00～14:00 ＊雨天中止	地下鉄 鶴見緑地駅改札口前	田中雄治、太田、杉本、山岡 連絡先: 080-1437-5473
第三日曜	11月16日 12月21日 1月18日	淀川 事前申込み、定員20名 能勢 自由参加、定員なし 石川 自由参加、定員なし	9:00～12:00 9:30～12:00 ＊雨天中止 9:00～12:30 ＊前日夜の天気予報で降水確率が50%以上の場合は中止	大阪メトロ谷町線・堺筋線、阪急千里線 天神橋筋六丁目駅 北側改札口 能勢電鉄 妙見口駅横駐輪場 (阪急・川西能勢口駅乗換) ※山道も歩きますので、足元に十分ご注意ください。 近鉄長野線・南海高野線 河内長野駅近鉄側広場	西脇淳浩、安竹、小西、松本 連絡先: 090-7590-2275 原 直、宮脇、大谷、林、佐藤(睦) 連絡先: 070-4807-2058 若林伸紀、福岡、吉田(一)、中尾 連絡先: 090-6328-5473
	11月22日 12月27日 1月24日	男里川 自由参加、定員なし ほしだ園地 事前申込み、定員30名 くろんど園地 事前申込み、定員30名	9:30～14:30 9:30～15:00 ＊雨天中止	南海線 樽井駅前 ※解散は、尾崎駅 京阪交野線 私市駅前 (京阪本線枚方市駅乗換) ※ ほしだ園地は、11月22日、1月24日 くろんど園地は、12月27日	榮本和幸、天野、庄司、小原 連絡先: 070-8567-8980 平 軍二、友田、神戸、新名、吉山 連絡先: 090-6901-1425 平 軍二、友田、神戸、吉山 連絡先: 090-6901-1425
	11月23日 12月28日 1月25日	南港野鳥園 自由参加、定員なし 大阪城公園 事前申込み、定員30名 錦織公園 事前申込み、定員40名	9:30～12:00 9:00～12:00 ＊雨天中止 9:30～14:30	現地 展望塔内(南港テクノポート線 トレードセンター前駅下車、西へ徒歩15分) JR大阪環状線 大阪城公園駅前 現地 パークセンター前(南駐車場横) (南海高野線滝谷駅徒歩約20分、 近鉄長野線滝谷不動駅徒歩約20分)	小西武史、松岡、田中(宏)、江津、幅 連絡先: 090-2389-2743 川相美和子、藤原(美)、川端 連絡先: 090-7496-4845 藤崎 裕、浅野、泉谷、玉邑、山下、石川、上村 連絡先: 090-8653-9165

＊「雨天中止」と明示していない探鳥地は、原則として集合時に決行か中止かを判断します。ただし、気象警報発令時は中止、雷注意報発令時は、状況により中止します。

2025年11月～2026年1月 探鳥会一覧 (むくどり通信290号)

探鳥会のご案内

探鳥会が初めての方、初心者の方も、お気軽にご参加ください。

スズメやヒヨドリ、モズやシジュウカラなど身近な野鳥のほか、夏はツバメ、冬はカモのなかま、春と秋にはキビタキやオオルリ、水辺のシギ・チドリのなかまなど、観察するポイントをていねいに解説、野鳥観察の楽しさをお伝えします。



新型コロナウイルス感染症、インフルエンザなど、基本的な感染防止対策は、各自で適切に行ってくださいよう、お願いいたします。

やさしいきもち

野外活動、無理なく楽しく

採集は控えて自然はそのままに

静かに、そーっと

一本道、道からはずれないで

気をつけよう、写真、給餌、人への迷惑

持って帰ろう、思い出とゴミ

近づかないで、野鳥の巣

大阪支部ホームページ
バードウォッチングカレンダーは、
こちらから ↓



日本野鳥の会大阪支部 企画グループ

一般探鳥会・平日探鳥会・バーディ・U50 探鳥会のご案内（2025年11月～2026年1月）

探鳥会に参加するときは、フィールドマナーを守り、自然と人に思いやりのある楽しい探鳥会にしましょう。

- ① 鳥の生活を脅かすことや、草花や昆虫を採集することは控えましょう。
- ② ゴミはすべて持ち帰りましょう。
- ③ 先導の担当者より前に出ないようにしましょう。
- ④ 名札を付けましょう。
- ⑤ 大声で話したり、笑ったりすることは慎みましょう。
- ⑥ 喫煙は休憩時と昼食時に限り、歩行中は禁煙で！ 周りの人への気遣いもわずれずに。

・事前申込み・定員設定の探鳥会は、これまでどおり大阪支部ホームページからお申込みください。
受付開始時刻は、開始日の午前10時。
無理な場合は、担当者への電話またはショートメールでお申込みください。

・自由参加の探鳥会は、集合時刻に集合場所においでください。

種別	テーマ／開催場所	開催日	集合・解散	イベントの概要／注意事項ほか	講師／担当ボランティア
一 般 事前申込み、定員40名 申込み締切り	法 隆 寺・斑 鳩 溜 池	11月1日	9:30	最古の木造建築、世界遺産に登録されている法隆寺の南側に広がる農耕地、法隆寺参道のアカマツ並木、法隆寺西側の藤の木古墳周辺の農耕地、法隆寺東側の中宮寺・法輪寺、斑鳩(いかるが)溜池などを巡ります。これまでのコースと変更し、龍田川と大和川には向かいません。 歩程:約8km ほぼ平坦	上村 賢、藤村、橋本(俊)、杉本、山下、石川(良)、石川(由) 当日連絡先:090-8653-9165
	ジョウビタキ・ニュウナイスズメ	(土)	14:30		
バ ー デ ィ 事前申込み、定員20名 申込み締切り	久 米 田 池	11月3日	9:30	幼児・小中学生とその家族を対象にしたイベントです。小学校高学年～中学生は、単独参加も可能です。三世代の参加を大歓迎いたします。今回のバーディは、岸和田自然資料館と大阪支部の共催です。下松駅から春木川の遊歩道に沿って歩き、久米田池に向かいます。久米田池では、カモやサギのなかま、内陸性のシギ・チドリのなかまを中心に観察します。 歩程:約6km ほぼ平坦 ※ 共催のため、バーディの定員を20名とします。	風間、中村、鈴子(きしわだ自然資料館) 上村 賢、駒田、高橋、嶋、山岡、石川(由) 当日連絡先:090-8653-9165
	カモ・サギ・シギ・チドリのなかま	(月・祝)	14:30		
平 日 自由参加、定員なし	山 田 池 公 園	11月19日	9:30	山田池公園を訪れる冬鳥のなかまをじっくりと観察しましょう。それを狙う猛禽類に出会えることを期待しましょう。 歩程:約4km ほぼ平坦	松岡三紀夫、藤原(美)、小山(朋)、桐山、八部、久下 連絡先:090-2389-2743
	オシドリ・ジョウビタキ・アトリ	(水)	12:30		
一 般 事前申込み、定員40名 10月30日 10:00～ 受付け開始	石 川 喜 志 ～ 富 田 林	11月29日	9:30	喜志駅の南東に広がる農耕地、粟ヶ池共園の水辺、石川河川敷など、さまざまな環境に生息する鳥たちの生態をさぐりましょう。 コース:喜志駅～粟ヶ池共園～(石川左岸)～石川サイクル橋～(石川右岸)～金剛大橋～富田林寺内町～富田林駅 歩程:約6km 平坦	上村 賢、藤村、嶋、橋本(俊)、杉本、山下、石川(良)、石川(由) 当日連絡先:090-8653-9165
	モズ・タヒバリ・チョウゲンボウ	(土)	15:30		
一 般 事前申込み、定員40名 11月5日 10:00～ 受付け開始	百 舌 鳥 古 墳 群	12月6日	9:30	百舌鳥古墳群のうち、御廟山古墳、石津ヶ丘古墳(履中天皇陵)、大仙公園内の古墳、大山古墳(仁徳天皇陵)を巡って探鳥を行います。屋食は大仙公園内の予定。オオタカ・ジョウビタキ・シロハラ・シメなどのほか、水鳥ではカンムリカイツブリ・オシドリ・ミコアイサなどを観察しましょう。 歩程:約6km 平坦	廣田博厚、藤村、川相、嶋、橋本(俊)、杉本、山下、石川(良)、石川(由) 当日連絡先:072-223-7419
	オシドリ・ミコアイサ カンムリカイツブリ	(土)	14:30		
U 50 + 一 般 自由参加、定員なし	山 辺 の 道	12月7日	9:30	※U50(50歳以下)＋一般の方との合同の探鳥会です。 春日断層に沿って奈良から桜井まで続く山の辺の道は「日本最古の道」と言われており、神話と万葉の古道で史跡を巡りながらの探鳥が楽しめます。崇神天皇陵のお濠ではカモ類を、古道ではホオジロやツグミの仲間・ニュウナイスズメなど、冬鳥たちとの出会いに期待しましょう。コース上、あちこちに設けられた野菜販売のお買いものも楽しみのひとつです。100円玉をお忘れなく！ ※雨天中止(当日午前中の降水確率が、60%以上で、中止。中止の場合、前日夜に支部HP & Facebookにて告知します)	藤原(司)、駒田、石川(良) U50の活動等についてのお問合せは、 U50-osaka@outlook.jp に連絡
	カシラダカ・ニュウナイスズメ	(日)	15:00		
会 員 限 定 事前申込み、定員20名 11月15日 10:00～ 受付け開始	金 剛 山	12月14日	9:30	ミソサザイやヒガラ、コガラやゴジュウカラ、アオゲラやオオアカゲラ、ウソやカヤクグリに出会えることを期待しましょう。 ロープウェイが撤去されたため、徒歩での登山・下山となり、健脚向きです。 なお、定員の関係で会員限定(むくどり会員を含む)の探鳥会とします。 ※ 金剛山ロープウェイ前バス停(終点)までは、南海高野線・河内長野駅前3番乗り場 8:36発 南海バスにご乗車ください。 歩程:約9km 急坂のある登山	上村 賢、大門、中辻 当日連絡先:090-8653-9165
	ミソサザイ・ウソ・アオゲラ	(日)	14:00		
平 日 自由参加、定員なし	平 城 宮 跡 ・ 水 上 池	12月17日	9:30	平城宮跡の森や林、草地や砂地などに住む鳥たち、近接する水上池でカモのなかまをじっくり観察しましょう。 ※ 前日のNHKテレビ、21時前の天気予報で50%以上の降水確率で中止します。 歩程:約6km 平坦	松岡三紀夫、藤原(美)、小山(朋)、桐山、八部、久下 当日連絡先:090-2389-2743
	オシドリ・ミコアイサ・オオジュリン	(水)	14:30		
バ ー デ ィ 事前申込み、定員40名 11月22日 10:00～ 受付け開始	服 部 緑 地	12月21日	9:30	幼児・小中学生とその家族を対象にしたイベントです。小学校高学年～中学生は、単独参加も可能です。三世代の参加を大歓迎いたします。ゆるやかな起伏に富んだ緑地には、竹やぶや松林のほか、多数の池があり、この池の大きさや深さ、周囲の植生や池の中の水生生物の違いによって、観察できる水鳥の種類が少しずつ異なっています。今回は、水鳥の見分けに挑戦、あわせて鳥たちが好む木の実・草の実について調べましょう。 歩程:約5km 平坦	上村 賢、駒田、高橋、嶋、山岡、石川(由) 当日連絡先:090-8653-9165
	ジョウビタキ・オナガガモ・アオバト	(日)	14:30		
バ ー デ ィ 事前申込み、定員40名 12月13日 10:00～ 受付け開始	百 舌 鳥 古 墳 群	1月12日	9:30	幼児・小中学生とその家族を対象にしたイベントです。小学校高学年～中学生は、単独参加も可能です。三世代の参加を大歓迎いたします。12月の百舌鳥古墳群探鳥会の逆コースをたどります。ジョウビタキ・シロハラやツグミなどの冬の渡り鳥、モズやカワラヒワ、カラのなかまやセキレイのなかまなどの留鳥のようすを観察するほか、古墳を取り巻く濠では、カイツブリやサギのなかま、オシドリやミコアイサなどを観察しましょう。 歩程:約6km 平坦	上村 賢、駒田、高橋、嶋、山岡、石川(由) 当日連絡先:090-8653-9165
	世界遺産と野鳥	(月・祝)	14:30		
平 日 自由参加、定員なし	山 田 池 公 園	1月21日	9:30	山田池公園を訪れる冬の渡りの小鳥たちがエサをさがすようすを観察するとともに、カモのなかまの雌雄の識別にも挑戦しましょう。猛禽類に出会えるかもしれません。 歩程:約4km ほぼ平坦	松岡三紀夫、藤原(美)、小山(朋)、桐山、八部、久下 連絡先:090-2389-2743
	ルリビタキ・シメ・オシドリ	(水)	12:30		
一 般 事前申込み、定員40名 12月28日 10:00～ 受付け開始	馬 見 丘 陵 公 園	1月31日	9:30	池部駅から遊歩道を経て、国指定特別史跡の「巢山古墳」まで、馬見丘陵公園をフィールドにカシラダカやアオジ、ジョウビタキやルリビタキ、シメやイカルなど、冬の山野を彩る小鳥たちのようすをじっくり観察しましょう。猛禽類が出現するかもしれません。 解散後、バスで近鉄大阪線・五位堂駅にもどるか、池部駅まで徒歩で戻るか選択してください。 歩程:約7km(解散後、池部駅まで徒歩で戻る場合は、約9km) 平坦	上村 賢、藤村、嶋、橋本(俊)、杉本、山下、石川(良)、石川(由) 当日連絡先:090-8653-9165
	トラツグミ・イカル・カシラダカ	(土)	14:50		

* 雨天の場合の判断について:「雨天中止」と明示していない探鳥会・探鳥地は、原則として集合時に決行か中止かを判断します。ただし、気象警報発令時は中止、雷注意報発令時は、状況により中止します。

堺第7-3区鳥類リスト (1979年～2025年10月)

日本野鳥の会大阪支部

鳥類目録第8版 NO	目名・科名 鳥 名	区分(府域) 見易さ・生息区分	環境 省RL	大阪府 RL	IUCN RL	繁殖 ランク	備考(主な記録など)
カモ目カモ科							
1	18 ツクシガモ	▲ 冬鳥	VU	—	—		まれ 2023/1/13 5羽など
2	19 アカツクシガモ	× 迷鳥					過去1例:1981/10/10 1羽
3	23 トモエガモ	△ 冬鳥	VU	—	—		少ない 2024/11/25 1羽など
4	24 シマアジ	△ 旅鳥					まれ 2025/10/20 2羽など
5	26 ハシビロガモ	● 冬鳥					普通 2024/10/21 240羽など
6	27 オカヨシガモ	○ 冬鳥					2025/10/20 109羽など 越冬個体は少ない
7	28 ヨシガモ	▲ 冬鳥	—	—	NT		少ない 2021/10/19 8羽など
8	29 ヒドリガモ	● 冬鳥					少数越冬 2024/10/21 5羽など
9	32 カルガモ	● 留鳥				A	普通 2025/8/22 49羽など
10	33 マガモ	● 冬鳥					少数越冬 2025/2/3 15羽など
11	34 オナガガモ	● 冬鳥					少ない 2024/10/21 13羽など
12	35 コガモ	● 冬鳥					普通 2025/3/17 81羽など
13	39 ホシハジロ	● 冬鳥	—	—	VU		多数越冬 2025/1/14 584羽、同2/3 689羽など
14	43 キンクロハジロ	● 冬鳥					少数越冬 2024/4/22 37羽など
15	44 スズガモ	○ 冬鳥					埋立初期の記録:1985/1/15 1433羽 近年の記録:2024/10/21 24羽
16	48 シノリガモ	× 冬鳥					過去1例:1991/3/10♂1羽
17	51 ビロードキンクロ	× 冬鳥					近年記録なし 大阪府鳥類目録1987
18	52 クロガモ	× 冬鳥					近年記録なし 大阪府鳥類目録1987
19	55 ホオジロガモ	△ 冬鳥					少数越冬 2025/2/3 16羽など
20	56 ミコアイサ	▲ 冬鳥					少数越冬 2024/11/25 7羽など
21	58 カワアイサ	△ 冬鳥					まれ 2015/1/20♀1羽など
22	59 ウミアイサ	▲ 冬鳥	—	NT	—		まれ 2025/3/17 1羽など
キジ目キジ科							
23	64 キジ	○ 留鳥				A	2010/5/25繁殖(巣卵) 2018年以降記録なし
カッコウ目カッコウ科							
24	80 ホトトギス	○ 夏鳥				B	少ない 2023/6/22♂1羽など
25	83 カッコウ	▲ 夏鳥					過去1例:2007/5/27 1羽
ハト目ハト科							
26	89 キジバト	● 留鳥				B	普通 2023/12/11 57羽など
27	93 アオバト	○ 留鳥					まれ 2024/4/24 1羽
ツル目クイナ科							
28	100 バン	● 留鳥					少ない 2024/9/24 2羽など
29	101 オオバン	○ 留鳥				A	2025/10/20 201羽など 2007年当時は多数繁殖していたが 近年は夏期には生息していない
30	103 ヒクイナ	▲ 留鳥	NT	VU		B	少ない 2024/6/17 1羽など
カイツブリ目カイツブリ科							
31	117 カイツブリ	● 留鳥				A	普通 2025/9/22 46羽(幼鳥含む)など
32	118 アカエリカイツブリ	× 冬鳥					過去1例:1986/1/15 1羽
33	119 カンムリカイツブリ	▲ 冬鳥					埋立初期の記録 1987/1/15 389羽 近年の記録 少ない 2024/10/21 2羽
34	121 ハジロカイツブリ	▲ 冬鳥					少数越冬 2024/11/25 10羽など
チドリ目セイタカシギ科							
35	124 セイタカシギ	▲ 旅鳥・夏鳥	VU	—	—	A	少ない 2006、2007、2025年繁殖
36	126 ソリハシセイタカシギ	× 旅鳥					過去2例:2022/9/27 2羽、2023/12/11 1羽
チドリ目チドリ科							
37	127 タゲリ	▲ 冬鳥	—	NT	NT		少数越冬 2025/1/14 8羽など
38	128 ケリ	● 留鳥	DD	NT	—	A	少数繁殖 2025/4/28(ヒナ2)など
39	130 ムナグロ	▲ 旅鳥	—	VU	—		まれ 2008/8/18 18羽など
40	131 ダイゼン	▲ 旅鳥	—	VU	VU		まれ 2007/8/22 1羽など
41	135 コチドリ	○ 夏鳥	—	NT	—	A	少数繁殖 2024/5/17(雛3、卵1)など
42	136 シロチドリ	○ 留鳥	VU	VU	—	A	2006年繁殖、近年記録なし
43	137 オオメダイチドリ	△ 旅鳥	—	NT	—		近年記録なし 大阪府鳥類目録1987
44	138 メダイチドリ	▲ 旅鳥	—	VU	EN		少ない 2025/4/28 4羽など
45	139 オオチドリ	× 迷鳥					過去1例:2016/9/27 1羽

鳥類目録第8版 NO	目名・科名 鳥名	区分（府域） 見易さ・生息区分		環境 省RL	大阪府 RL	IUCN RL	繁殖 ランク	備考（主な記録など）
チドリ目シギ科								
46	144 チュウシャクシギ	○	旅鳥	—	NT	—		少ない 2025/4/28 4羽など
47	146 ホウロクシギ	△	旅鳥	VU	NT	EN		まれ 2009/4/24 1羽
48	148 ダイシャクシギ	△	旅鳥	—	NT	NT		1990/8/26 1羽 近年記録なし
49	149 オオソリハシシギ	▲	旅鳥	VU	VU	NT		近年記録なし 大阪府鳥類目録1987
50	150 オグロシギ	△	旅鳥	—	NT	NT		近年記録なし 大阪府鳥類目録1987
51	152 キョウジョシギ	▲	旅鳥	—	VU	NT		まれ 2007/4/25 1羽など
52	153 オバシギ	▲	旅鳥	—	VU	EN		まれ 2025/4/15 2羽など
53	154 コオバシギ	△	旅鳥	—	NT	NT		近年記録なし 大阪府鳥類目録1987
54	155 エリマキシギ	△	旅鳥	—	NT	—		まれ 2007/8/24 1羽など
55	156 キリアイ	△	旅鳥	—	NT	VU		まれ 2007/8/22 14羽
56	157 ウズラシギ	△	旅鳥	—	VU	VU		まれ 2007/5/23 1羽
57	160 オジロトウネン	△	旅鳥	—	NT	—		近年記録なし 大阪府鳥類目録1987
58	161 ヒバリシギ	△	旅鳥	—	VU	—		まれ 2008/5/25 1羽
59	163 トウネン	○	旅鳥	—	NT	NT		少ない 2024/9/24 3羽など
60	164 ミユビシギ	△	旅鳥	—	NT	—		まれ 2007/8/24 1羽
61	165 ハマシギ	○	冬鳥	NT	—	NT		少ない 2024/9/24 1羽など
62	176 ヤマシギ	▲	冬鳥					まれ 2011/1/18 4羽など
63	183 タシギ	▲	冬鳥	—	NT	—		少ない 2024/9/24 1羽など
64	184 ソリハシシギ	▲	旅鳥	—	VU	—		少ない 2025/5/20 1羽など
65	186 アカエリヒレアシシギ	▲	旅鳥					まれ 2017/4/18 1羽など
66	188 イソシギ	○	留鳥	—	NT	—		少ない 2024/8/19 4羽など
67	190 クサシギ	▲	冬鳥	—	NT	—		まれ 2009/9/15 2羽など
68	192 キアシシギ	○	旅鳥					少ない 2022/10/4 4羽など
69	194 アカアシシギ	△	旅鳥	VU	NT	—		まれ 2008/5/30 1羽
70	195 コアオアシシギ	▲	旅鳥	—	NT	—		まれ 2025/1/14 1羽など
71	196 タカブシギ	△	旅鳥	VU	VU	—		少ない 2024/9/24 1羽など
72	197 ツルシギ	△	旅鳥	VU	VU	—		まれ 2022/10/4 1羽など
73	198 アオアシシギ	▲	旅鳥	—	VU	—		少ない 2022/10/4 10羽など
チドリ目ツバメチドリ科								
74	201 ツバメチドリ	△	旅鳥	VU	CR+EN	—	A	2008年繁殖、近年記録なし
チドリ目カモメ科								
75	202 クロアジサシ	×	迷鳥					過去1例：1980.9.18 1羽
76	213 ユリカモメ	●	冬鳥					普通 冬期、Z池上空や周辺海上を通過するものを記録
77	221 ウミネコ	○	留鳥					普通 夏期、Z池上空や周辺海上を通過するものを記録
78	222 カモメ	○	冬鳥					まれ Z池上空や周辺海上を通過するものを記録
79	226 セグロカモメ	○	冬鳥					普通 冬期、Z池上空や周辺海上を通過するものを記録
80	227 オオセグロカモメ	▲	冬鳥					まれ Z池上空や周辺海上を通過するものを記録
81	233 コアジサシ	○	夏鳥	VU	CR+EN	—	A	2008年繁殖、近年繁殖せず
82	241 アジサシ	▲	旅鳥					まれ 2019/5/21 3羽など
83	243 クロハラアジサシ	△	旅鳥					まれ 2024/6/17 夏羽1羽など
ミズナギドリ目ミズナギドリ科								
84	297 ハシボソミズナギドリ	△	旅鳥					まれ 2025/5/20 2羽周辺海上
コウノトリ目コウノトリ科								
85	306 コウノトリ	×	冬鳥					2025/3/8 1羽上空通過
カツオドリ目グンカンドリ科								
86	308 コグンカンドリ	×	迷鳥					過去1例：1982/4/29 1羽
カツオドリ目ウ科								
87	315 カワウ	●	留鳥					普通 周年生息 2025/8/22 49羽など
ペリカン目トキ科								
88	319 ヘラサギ	×	迷鳥					まれ 2022/11/15 5羽など
ペリカン目サギ科								
89	322 ヨシゴイ	▲	夏鳥	NT	VU	—		まれ 2010/5/26 1羽など
90	328 ゴイサギ	○	留鳥					近年記録なし 大阪府鳥類目録1987
91	330 ササゴイ	▲	夏鳥					まれ 2023/5/18 1羽など
92	332 アマサギ	▲	夏鳥	—	VU	—		まれ 2025/5/20 3羽など
93	333 アオサギ	●	留鳥					普通 2023/9/21 30羽など

	鳥類目 録第8版 NO	目名・科名 鳥 名	区分（府域） 見易さ・生息区分	環境 省RL	大阪府 RL	IUCN RL	繁殖 ランク	備考（主な記録など）
94	335	ダイサギ	○ 留鳥					普通 2025/10/22 39羽など
95	336	チュウサギ	▲ 留鳥	NT	—	—		まれ 2025/5/20 2羽など
96	337	コサギ	○ 留鳥					少ない 2023/10/19 9羽など
		タカ目ミサゴ科						
97	343	ミサゴ	○ 留鳥	NT	—	—		普通 周年生息 2024/11/25 9羽など
		タカ目タカ科						
98	353	ハイタカ	▲ 冬鳥	NT	—	—		少ない 2024/12/16 1羽など
99	354	オオタカ	▲ 留鳥	NT	NT	—		少ない 2024/10/21 1羽など
100	355	チュウヒ	△ 冬鳥	EN	CR+EN	—	A	繁殖 2006、2009 以降繁殖なし 少数冬鳥として飛来
101	356	ハイイロチュウヒ	△ 冬鳥	—	NT	—		まれ 2009/3/7 1羽など
102	359	トビ	○ 留鳥					普通 2024/11/25 43羽など
103	364	ケアシノスリ	× 迷鳥					2008.1.5 4羽、2008.2.3 8羽など
104	366	ノスリ	▲ 冬鳥	—	NT	—		少ない 2024/10/21 1羽など
		フクロウ目フクロウ科						
105	372	トラフズク	▲ 冬鳥					まれ 2011/2/15 1羽など
106	373	コミミズク	▲ 冬鳥	—	VU	—		まれ 2020/1/14 1羽など
		ブッポウソウ目カワセミ科						
107	384	カワセミ	○ 留鳥					少ない 2023/10/19 1羽など
		キツツキ目キツツキ科						
108	389	アリスイ	▲ 冬鳥					少ない 2024/9/24 2羽など
		ハヤブサ目ハヤブサ科						
109	402	チョウゲンボウ	▲ 留鳥					少ない 2025/7/9 4羽など
110	404	コチョウゲンボウ	△ 冬鳥	—	NT	—		まれ 2020/1/14 1羽など
111	407	ハヤブサ	▲ 留鳥	VU	—	—		少ない 2025/9/22 2羽など
		スズメ目サンショウウイ科						
112	411	サンショウウイ	▲ 夏鳥	VU	VU	—		まれ 2024/4/22 2羽
		スズメ目モズ科						
113	425	モズ	● 留鳥				A	普通 2021/10/19 高鳴き個体14羽確認
		スズメ目カラス科						
114	435	ハシボソガラス	● 留鳥				A	普通 2024/4/22 107羽など
115	436	ハシブトガラス	● 留鳥				A	普通 2024/4/22 73羽など
		スズメ目レンジャク科						
116	438	キレンジャク	▲ 冬鳥					まれ 2018/2/20 20羽
117	439	ヒレンジャク	▲ 冬鳥					まれ 2018/2/20 130羽など
		スズメ目シジュウカラ科						
118	440	ヒガラ	▲ 留鳥					まれ 2012/12/17 2羽など
119	442	ヤマガラ	● 留鳥					過去1例 2012/10/23 1羽
120	447	シジュウカラ	● 留鳥				A	少ない 2022/5/24幼鳥含む家族群
		スズメ目ツリスガラ科						
121	448	ツリスガラ	▲ 冬鳥					まれ 2007/5/2 45+羽 以降記録なし
		スズメ目ヒバリ科						
122	450	ヒバリ	● 留鳥	—	NT	—	A	少ない 共生の森エリア外の荒地 2024/12/16 10羽など
		スズメ目ヒヨドリ科						
123	456	ヒヨドリ	● 留鳥				B	普通 2024/10/21 170羽など
		スズメ目ツバメ科						
124	458	ショウドウツバメ	▲ 旅鳥					通過鳥 まれ 2023/10/19 27羽など
125	461	ツバメ	● 夏鳥					普通 2024/8/19 39羽など
126	462	イワツバメ	▲ 夏鳥					通過鳥 まれ 2009/9/15
127	463	コシアカツバメ	▲ 夏鳥	—	NT	—		通過鳥 まれ 2023/5/18 1羽
		スズメ目ウグイス科						
128	464	ウグイス	● 留鳥				B	普通 2023/6/22 さえずり個体32羽
129	466	ヤブサメ	● 夏鳥					通過鳥 まれ 2007.5.2 1羽
		スズメ目ムシクイ科						
130	476	センダイムシクイ	○ 夏鳥	—	NT	—		通過鳥 少ない 2007/5/2 1羽など
131	479	エゾムシクイ	▲ 旅鳥					通過鳥 少ない 2023/5/18 1羽など
132	482	オオムシクイ	○ 旅鳥					通過鳥 少ない 2023/10/19 4羽など

鳥類目録第8版NO	目名・科名 鳥名	区分（府域） 見易さ・生息区分	環境省RL	大阪府RL	IUCN RL	繁殖ランク	備考（主な記録など）
	スズメ目ヨシキリ科						
133	484 オオヨシキリ	○ 夏鳥	—	NT	—	A	普通 2023/5/18 さえずり個体41
134	485 コヨシキリ	▲ 旅鳥					まれ 2011/5/31 1羽など
	スズメ目セッカ科						
135	497 セッカ	● 留鳥	—	NT	—	A	普通 2023/5/18 さえずり個体35
	スズメ目メジロ科						
136	501 メジロ	● 留鳥					冬期普通 2025/1/14 65羽など
	スズメ目ムクドリ科						
137	507 ムクドリ	● 留鳥					普通 2025/1/14 233羽など
138	509 コムクドリ	▲ 旅鳥					通過鳥 少ない 2024/9/24 20羽など
	スズメ目ツグミ科						
139	514 トラツグミ	▲ 冬鳥	—	NT	—		少ない 2023/10/19 1羽など
140	523 クロツグミ	▲ 夏鳥					通過鳥 少ない 2025/4/28 3羽
141	526 シロハラ	● 冬鳥					少ない 2023/2/16 9羽など
142	531 ツグミ	● 冬鳥					普通 2023/2/16 298羽など
	スズメ目ヒタキ科						
143	533 エソビタキ	▲ 旅鳥					通過鳥 少ない 2024/10/21 2羽など
144	537 コサメビタキ	○ 夏鳥	—	NT	—		少ない 2025/9/22 3羽など
145	539 オオルリ	○ 夏鳥					通過鳥 大阪府鳥類目録1987
146	543 ノゴマ	△ 旅鳥					通過鳥 まれ 2015/10/2 1羽
147	550 キビタキ	○ 夏鳥					通過鳥 少ない 2025/4/28 2羽など
148	552 ムギマキ	△ 旅鳥					通過鳥 まれ 2007/5.2 1羽
149	561 ジョウビタキ	○ 冬鳥					普通 2025/3/17 7羽など
150	564 イソヒヨドリ	○ 留鳥					少ない 2024/8/19 2羽など
151	568 ノビタキ	○ 旅鳥					通過鳥 少ない 2024/10/21 3羽など
	スズメ目スズメ科						
152	575 スズメ	● 留鳥				B	普通 2024/12/16 83羽など
	スズメ目セキレイ科						
153	584 キセキレイ	● 留鳥					通過鳥 まれ 2025/9/22 1羽など
154	585 ハクセキレイ	● 留鳥					普通 2023/11/24 10羽など
155	586 セグロセキレイ	● 留鳥					まれ 2008/11/17 1羽
156	591 ビンズイ	○ 冬鳥					まれ 2019/1/2 1羽など
157	595 タヒバリ	▲ 冬鳥					少ない 2023/3/23 4羽など
	スズメ目アトリ科						
158	597 アトリ	○ 冬鳥					まれ 2024/10/24 9羽
159	606 ベニマシコ	○ 冬鳥					少ない 2022/12/13 1羽など
160	608 カワラヒワ	● 留鳥				B	普通 2024/8/19 17羽など
	スズメ目ホオジロ科						
161	618 ホオジロ	● 留鳥					少数が冬期生息 2025/1/14 5羽など
162	622 ホオアカ	▲ 冬鳥	—	NT	—		まれ 2015/1/20 1羽など
163	625 カシラダカ	○ 冬鳥	—	NT	VU		まれ 2014/12/9 1羽など
164	626 ミヤマホオジロ	▲ 冬鳥					まれ 2008/11/17 1羽など
165	633 アオジ	● 冬鳥					少ない 2024/12/16 14羽など
166	637 オオジュリン	○ 冬鳥	—	NT	—		少ない 2024/2/19 10羽など
	移入種 ハト目ハト科						
1	ドバト	● 留鳥					調査エリア内では少ない 2025/6/17 28羽など
	種数合計 166+1						

凡例) 区分 見易さ ●：多くてよく見られる ○：普通 ▲：少ない △：稀 ×：ごく稀

生息区分 大阪府における生息区分 「大阪府鳥類目録2016」（本会発行）に準拠

レッドリスト区分 絶滅危惧ⅠA類：C R 絶滅危惧ⅠB類：E N 絶滅危惧Ⅱ類：V U
準絶滅危惧：NT 情報不足：D D

繁殖ランク A：繁殖を確認 B：繁殖の確認は出来なかったが、繁殖の可能性がある